

中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団第22回訪日報告書

目次

報告書の刊行にあたって	1
中国日本商会社会貢献事業「走近日企・感受日本」寄付金申込社(者)一覧	2
2018年度中国日本商会役員名簿.....	3
2018年度社会貢献委員会委員名簿	5
2018年度社会貢献委員会ワーキンググループ委員名簿	6
王占起団長挨拶.....	7
主催、共催団体の概要	8
第22回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団 団員名簿.....	9
第22回訪日ホームステイ受け入れリスト	10
第22回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察日程	11
第22回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察先出席者リスト	12
< 訪日記録 >	
京セラ (5/30)/担当:清華大学.....	15
京都大学 (5/30)/担当:北京語言大学.....	18
テルモメディカルプラネックス (6/1)/担当:首都医科大学	20
凸版印刷博物館 (6/1)/担当:中国人民大学.....	22
住友商事 (6/1)/担当:外交学院	24
三井住友銀行(6/4)/担当:對外經濟貿易大学	26
日比谷松本楼 (6/4)/担当:首都医科大学.....	29
中国大使館 (6/4)/担当:外交学院.....	31
早稲田大学 (6/4)/担当:清華大学.....	33
ホテルニューオータニ(エコセンター)(6/5)/担当:中国人民大学	37
学生たちの感想文から	39
学生たちの観た日本	52
学生たちの撮った写真	68
第22回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日活動メディア報道リスト(中国語のみ).....	1

第22回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本書は、中国日本商会が実施する「走近日企・感受日本」事業の第22回訪日団の報告書です。

本事業は、当会が会員からの寄付金を原資として、中国人大学生を訪日視察に招待派遣するもので、2007年から年に2回実施しており、今回までに31大学681名の学生に参加頂きました。

本年は日中平和友好条約締結40周年であり、本事業もその記念事業の一つとしての認定を受けて実施されました。次代の中国を担う若者に日本の実像に触れてもらう機会を提供する本事業は、日中両国民の相互理解の増進に大きく貢献しているものと自負しております。

第22回訪日団は、2018年5月29日から6月5日までの8日間、6大学から選抜した29名で編成され、各訪問先において貴重な交流と体験をし、無事に終了いたしました。

このたびの訪日では、京都、神奈川、東京で会員企業6社を訪問させていただいた他、京都大学、早稲田大学における日本の大学生との交流、中国大使館訪問、京都の名勝や日比谷松本楼の視察、一泊二日の日本の家庭へのホームステイ体験など、多彩なプログラムを実施しました。また、ホームステイの受入れにご協力いただいた企業数は16社にのぼっております。

このように本事業は、中国日本商会の会員企業の多大なる協力と貢献のもとに実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会に全面的なご協力を頂くとともに、一般財団法人日中経済協会、中国友好和平発展基金会と公益社団法人企業市民協議会(CBCC)に適切な寄付金の管理を行って頂いております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力を頂いているすべての関係者に厚くお礼を申し上げます。

本事業に参加した大学生たち、あるいは彼らが交流した日本の学生たちが、将来、日本との交流の懸け橋となり、さらに強固な日中交流関係の促進の為に貢献してくれる事を、我々、中国ビジネスに関わる企業としても心より期待しております。

なお、今回の派遣は、第3期交流の初回として実施しました。本事業は日中関係が厳しい環境にある時にも敢えて継続して参りました。

中国日本商会としては、今後も、本事業を通じて次代の中国を担う若者の日本との交流と理解促進を図って参る所存でございますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中国日本商会 会長 平井康光

2018年6月

中国日本商会社会貢献事業「走近日企・感受日本」 寄付金申込社（者）一覧

【寄付金】600万円

1	アサヒグループホールディングス株式会社
2	伊藤忠商事株式会社 伊藤忠(中国)集团有限公司
3	新日鐵住金株式会社
4	住友商事(中国)有限公司
5	東芝(中国)有限公司
6	トヨタ自動車株式会社
7	丸紅(中国)有限公司
8	みずほ銀行(中国)有限公司
9	三井物産(中国)有限公司
10	三菱商事株式会社
11	三菱UFJ 銀行(中国)有限公司
12	三菱電機(中国)有限公司
13	日本航空株式会社
14	全日本空輸株式会社

【寄付金】250万円以上～600万円未満

1	キャノン(中国)有限公司
2	アルプス(中国)有限公司
3	住友化学投資(中国)有限公司
4	ソニー(中国)有限公司
5	中外製薬株式会社
6	テルモ(中国)投資有限公司
7	豊田通商株式会社、豊田通商(中国)有限公司
8	松下電器(中国)有限公司
9	三井化学株式会社
10	三井住友銀行(中国)有限公司
11	三菱化学控股管理(北京)有限公司

合計60社名

* 個人の方は寄付当時の所属(企業名)を記入しています。

【寄付金】100万円以上～250万円未満

1	旭化成株式会社
2	株式会社 I H I
3	岩谷(中国)有限公司
4	株式会社資生堂
5	JTB グループ(新紀元 /JTB)
6	JXTG エネルギー株式会社
7	双日(中国)有限公司
8	東京海上日動火災保険株式会社
9	野村ホールディングス株式会社
10	北京電通広告有限公司
11	三井住友海上火災保険(中国)有限公司 三井住友海上火災保険公司 駐中国総代表处
12	匿名希望

【寄付金】1万円以上～100万円未満

1	日本農林中央金庫有限公司
2	旭硝子(中国)投資有限公司
3	宝酒造株式会社
4	東レ株式会社
5	あいおいニッセイ同和損保
6	大和証券株式会社
7	凸版印刷株式会社
8	豊田汽車金融(中国)有限公司
9	日立租賃(中国)有限公司
10	高橋修三 (個人・長富宮飯店)
11	武田勝年 (個人・元三菱商事)
12	熊琳 (賛助会員)
13	株式会社ブリヂストン
14	米原佳彦 (個人・阪和商貿)
15	世達志不動産投資顧問(上海)有限公司
16	JA 全農
17	日中経済協会
18	今村浩 (個人・NTT DOCOMO China Co., Ltd)
19	コケ家具(中国)有限公司
20	ヤマハ発動機株式会社
21	稲葉雅人 (個人・NTTデータ(中国)投資)
22	茶山秀一、岩城拓 (個人・日本科学技術振興機構)
23	陳言 (賛助会員)

2018年度中国日本商会役員一覧

2018年6月20日現在

	商会役職	氏 名	会社名	役職
1	会長	平井 康光	三菱商事	執行役員 東アジア統括
2	副会長	上田 明裕	伊藤忠	常務執行役員 東アジア総代表
3	副会長	宇平 直史	NTTデータ	執行役員 中国総代表
4	副会長	小澤 秀樹	キヤノン	副社長執行役員
5	副会長	高橋 望	新日鐵住金	執行役員 中国総代表 北京事務所長
6	副会長	古場 文博	住友商事	専務執行役員 東アジア総代表
7	副会長	本田 和秀	凸版印刷	北京事務所 首席代表
8	副会長	小林 一弘	トヨタ自動車	専務役員、トヨタ(中国)投資 董事長兼総経理
9	副会長	岩永 正嗣	日中経済協会	北京事務所 所長
10	副会長	米澤 章	日本航空	執行役員 中国地区総代表 北京支店長
11	副会長	堂ノ上 武夫	日本貿易振興機構	北京事務所 所長
12	副会長	横尾 定顕	パナソニックチャイナ	役員 中国・北東アジア地域総代表
13	副会長	平澤 順	丸紅	執行役員 中国総代表
14	副会長	岡 豊樹	みずほ銀行	執行役員 中国総代表
15	副会長	小野 元生	三井物産	専務執行役員 中国総代表
16	副会長	垣内 隆	三井住友銀行(中国)	北京支店 支店長
17	副会長	小原 正達	三菱東京UFJ銀行(中国)	副董事長
18	理事	亀倉 隆志	岩谷産業	常務執行役員 中国総代表
19	理事	西村 康	双日	常務執行役員 中国総代表
20	理事	近藤 隆弘	豊田通商	専務執行役員、東アジア地域統括兼総代表
21	理事	松原 圭司	阪和興業	執行役員 中国総代表
22	理事	陶 履徳	日鉄住金物産	北京事務所 所長
23	理事	上田 敏裕	旭硝子(中国)投資	董事長 総経理
24	理事	青山 傑	コスモ石油	北京事務所 首席代表
25	理事	市川 正人	クボタ	北京事務所 首席代表
26	理事	池松 克紀	JFEエンジニアリング(北京)	総経理
27	理事	西村 伸吾	JXTGエネルギー	執行役員 中国総代表
28	理事	明石 宏二郎	東京電力	北京代表処 首席代表
29	理事	青木 馨	三菱重工業	執行役員 中国総代表
30	理事	今井 正志	アルプス(中国)	総経理
31	理事	堂園 憲治	NTTコミュニケーションズ(中国)	北京分公司 総経理
32	理事	本間 雅之	NTT DOCOMO China通信技術	董事長
33	理事	後藤 雄次	京瓷(中国)商貿	董事・総経理
34	理事	川下 竜一郎	北京凱迪迪愛通信技術	董事長
35	理事	高橋 洋	ソニー(中国)	董事長&総裁
36	理事	須毛原 勲	東芝	中国総代表

37	理事	小久保 憲一	日立製作所	執行役専務 中国総代表
38	理事	高澤 信哉	富士通(中国)	董事長兼総経理
39	理事	小原 弘嗣	マルチメディア振興センター	北京代表処 首席代表
40	理事	富澤 克行	三菱電機	執行役員 中国総代表
41	理事	棕野 貴司	旭化成	執行役員 中国総代表
42	理事	山洞 正一	アサヒグループホールディングス	中国総代表
43	理事	栗山 博通	資生堂(中国)投資	技術本部 本部長
44	理事	安藤 洋	住友化学投資(中国)	総経理
45	理事	陳 偉東	日健中外科技(北京)	総経理
46	理事	柴崎 崇紀	テルモ	上席執行役員 中国総代表
47	理事	寺師 啓	東レ	北京事務所 所長
48	理事	松崎 宏	三井化学	理事 中国総代表
49	理事	白上 博能	三菱化学控股管理(北京)	董事長
50	理事	菅井 信明	東京海上日動火災保険(中国)	北京分公司 総監
51	理事	東 善明	日本銀行	北京事務所 首席代表
52	理事	北村 充隆	野村證券	北京・上海駐在員事務所統括責任者
53	理事	林 純如	三菱UFJ信託銀行	北京代表処 首席代表
54	理事	夏目 龍	明治安田生命保険	北京代表処 首席代表
55	理事	三宅 英夫	全日本空輸	上席執行役員 中国統括室長兼北京・天津支店長
56	理事	杉山 龍雄	日本通運	常務執行役員 東アジア地域総括
57	理事	高泉 宏康	日本郵船	中国総代表
58	理事	今井 誠	イトーヨーカ堂(中国)投資	董事長
59	理事	石毛 二郎	JTB新紀元	総経理
60	理事	小金井 英生	スターツ北京	華北地区統括 総経理
61	理事	谷口 利英	全日空国際旅行社	総経理
62	理事	高橋 修三	長富宮中心	常務副総経理 ホテル総支配人
63	理事	馬場 章正	北京電通広告	董事 総経理
64	理事	益田 太平	北京首開野村不動産管理	董事 総経理
65	理事	浅田 隆司	日中経済貿易センター	代表理事理事長
66	理事	中下 裕三	日本国際貿易促進協会	北京事務所 中国総代表
67	理事	厚谷 禎一	KPMG	パートナー
68	理事	塚本 武	NEC	中国総代表 総裁
69	理事	喜多羅 和宏	国誉家具(中国)	北京分公司 総経理
70	理事	篠原 康人	三井住友海上火災保険(中国)	北京分公司 総経理
71	理事	越智 博通	北京陸通印刷	董事長
72	理事	山本 努	北京丘比食品	総経理
73	監事	三浦 智志	監査法人トーマツ	パートナー
74	監事	越智 幹文	国際協力銀行	首席代表

2018年度社会貢献委員会委員名簿

2018年6月20日現在

	氏 名	(会社名・役職)
社会貢献委員長	古場 文博	(住友商事 専務執行役員 東アジア総代表)
委員	上田 明裕	(伊藤忠 常務執行役員 東アジア総代表)
委員	宇平 直史	(NTTデータ 執行役員 中国総代表)
委員	小澤 秀樹	(キヤノン 副社長執行役員)
委員	高橋 望	(新日鐵住金 執行役員 中国総代表 北京事務所長)
委員	本田 和秀	(凸版印刷 北京事務所 首席代表)
委員	小林 一弘	(トヨタ自動車 専務役員、トヨタ自動車(中国)投資 董事長)
委員	岩永 正嗣	(日中経済協会 北京事務所 所長)
委員	米澤 章	(日本航空 執行役員 中国地区総代表 北京支店長)
委員	堂ノ上 武夫	(日本貿易振興機構 北京事務所 所長)
委員	横尾 定顕	(パナソニックチャイナ 役員 中国・北東アジア地域総代表)
委員	平澤 順	(丸紅 執行役員 中国総代表)
委員	岡 豊樹	(みずほ銀行 執行役員 中国総代表)
委員	小野 元生	(三井物産 専務執行役員 中国総代表)
委員	垣内 隆	(三井住友銀行(中国) 北京支店 支店長)
委員	平井 康光	(三菱商事 執行役員 東アジア統括)
委員	小原 正達	(三菱UFJ銀行(中国) 副董事長)
委員	三宅 英夫	(全日本空輸 上席執行役員 中国総代表 北京・天津支店長)
委員	石毛 二郎	(交通公社新紀元国際旅行社 董事 総経理)

2018年度社会貢献委員会ワーキンググループ委員名簿

2018年6月20日現在

会社名	氏名	役職
【社会貢献委員長】	古場 文博	住友商事 専務執行役員 東アジア総代表
【WG座長】	岩永 正嗣	日中経済協会 所長
アサヒグループホールディングス	飯塚 喜美子	行政局主任
伊藤忠(中国)集团有限公司	向 萌々子	東アジア経営企画グループ 中国人事・総務部 部長助理
キヤノン(中国)有限公司	福井 穂高	コーポレートコミュニケーション戦略本部副総経理
新日鐵住金諮詢(北京)有限公司	濱崎 由基	部長
交通公社新紀元国際旅行社有限公司	石毛 二郎	董事 総経理
住友商事(中国)有限公司	中原 誠	人事部 部長
	米 健	中国総代表助理
全日本空輸株式会社	片桐 稜太	銷售部
東芝(中国)有限公司	薬丸 法之	副総裁
トヨタ自動車(中国)投資有限公司	栗田 弘毅	渉外部主査
日中経済協会	澤津 直也	副所長
日本航空株式会社	永島 大地	営業担当
日本貿易振興機構 北京事務所	日向 裕弥	副所長
日立(中国)有限公司	岩見 健太郎	副総経理
丸紅(中国)有限公司	松園 大	中国総代表助理
みずほ銀行(中国)有限公司 北京支店	柳原 諒一	営業二課
三井物産(中国)有限公司	城戸 崇裕	業務部 部長
三菱商事(中国)商業有限公司	李 征	企画業務部 副部長
三菱電機(中国)有限公司	王 蕾	経営企画室 主管
三菱UFJ銀行(中国) 北京支店	張 婷	企画部 北京本部
【オブザーバー】	菊池 信太郎	日本大使館 広報文化センター 一等書記官
【オブザーバー】	田中 麻美子	日本大使館 経済部 一等書記官
【訪日中のアテンド等】	横山 勝明	日中経済協会 (東京) 参与

第22回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表団報告書 団長挨拶

2018年5月29日から6月5日にかけて、第22回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日団一行33名は、日本での8日間の訪問を行いました。中国日本商会、日中経済協会そして訪問先の関係者の多大なるご支援ならびにご協力の下、代表団の訪日活動は無事そして円満に期待通りの成果をあげることができました。

今回の代表団は清華大学、中国人民大学、對外経済貿易大学、北京語言大学、首都医科大学及び外交学院の優秀な学生により構成されています。日本滞在期間中、代表団は京セラ、住友商事、三井住友銀行、テルモ、凸版印刷、ホテルニューオータニといった有名企業6社の見学の他、京都大学や早稲田大学の学生との交流、京都嵐山の周恩来総理詩碑前での詩の朗読、中華人民共和国駐日本国大使館への表敬訪問、日比谷松本楼への訪問、さらには中国日本商会各会員企業の従業員宅でのホームステイを行いました。充実したスケジュールの中、学生等は今回の訪問を通じて日本企業の進んだ技術、経営理念、環境保全意識を学ぶと同時に茶道や座禅等の日本の伝統文化を体験し、また日本人々と友好を深めることができました。団員らは今回の8日間において細かな観察や思考を通して様々な角度や側面から認識した日本について日記形式にまとめました。ここに団員らの日本訪問における思いを皆様へご紹介いたします。皆様にはこの報告書から、彼らの収穫や感動といったものを感じ取って頂ければ光栄に存じます。

このほど、李克強総理が日本を公式訪問し第7回日中韓サミットに参加するなど、日中関係は全面的な改善と発展における重要な局面を迎えております。李克強総理は、民間の交流を強化、また代々続く友好を促進し、日中平和友好条約締結40周年そして両国が相次いでオリンピックを開催するという契機を活用することで、各分野における人的・文化的交流を幅広く実施し、民間の共通認識を深め、より多くの若者が日中友好に関わるようにし、日中関係の発展をサポートする力を高めるべきと述べています。両国の青年が共に手を携え、高め合い、日中友好の架け橋となることを心から願っております。中日友好協会としましても、日本の各界の皆様と共に両国の青少年交流に力を注ぎ、日中友好事業の担い手を育成していく所存でございます。

最後に、今回の代表団の訪日に際して多大なご支援を頂いた中国日本商会、日中経済協会及び関連各企業そしてホストファミリーの皆様、に、改めまして心より感謝申し上げます。

第22回「走近日企・感受日本」中国大学生訪日代表団 団長
中日友好協会副秘書長
王占起

主催、共催団体の概要

中国日本商会

在北京企業の円滑な事業活動を支援するとともに、日中間の経済交流の活発化を通じて、日中友好を促進することを目的として、1980年10月に設立された北京日本商工クラブを前身とする。中華人民共和国国務院令第36号「外国商会管理暫行規定」に基づき認可された外国人商工会議所の第1号として、1991年4月22日に設立された。

会員数は、2018年6月末日現在、市内法人会員576社、市外法人会員62社、個人会員13名、賛助会員12名の合計663社(名)を擁している。

中国日本友好協会

1963年に中華全国総工会、中国人民外交学会など19の民間団体によって発起設立された、中国における最も代表的な対日民間友好組織である。創立以来、周恩来総理の提唱の下で積極的に対日友好交流活動を展開し、1972年の中日国交正常化と1978年の中日平和友好条約の締結においては大きな貢献を果たした。政治、経済、文化、スポーツなどの各分野で対日友好交流事業を強力に展開し、健全で安定的な両国関係の推進に重要な役割を果たしている。

中国友好和平発展基金会

中国人民対外友好協会の下部組織として、1996年に設立された。各国との友好増進、国際協力の推進、世界平和、共同発展を主旨とし、世界平和と人類の進歩に貢献するため、中国と海外各国との友好事業を始め、文化、教育、医療衛生、環境保護、スポーツ、経済、貧困支援などの数多くの分野で社会的公益活動を行っている。

一般財団法人日中経済協会

経済産業省を始めとする日本政府及び日本経済団体連合会他経済界の支援の下に、日本と中国との経済交流促進のため、1972年に設立された。

第22回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団団員名簿

	姓名	性別	所属		専攻
団 長	王占起	男	中国日本友好協会	副秘書長	
団 員	羅 睿	男	清華大学	自動車工程系	車両工程
団 員	杜秉霖	男	清華大学	エネルギー・動力工程系	エネルギー・動力工程
団 員	劉繆詩棋	女	清華大学	数学系	数学・応用数学
団 員	李安南	男	清華大学	自動化系	自動化
団 員	盧宇芳	女	清華大学	汽車系	車両工程
団 員	趙元培	男	中国人民大学	情報学院	コンピュータ科学・技術
団 員	徐怡雯	女	中国人民大学	環境学院	資源・環境経済学
団 員	胡心縁	女	中国人民大学	経済学院	経済学
団 員	孫 震	男	中国人民大学	環境学院	資源・環境経済学
団 員	耿思博	男	中国人民大学	経済学院	経済学
団 員	闕浚竹	女	對外經濟貿易大学	国際經濟貿易学院	金融
団 員	葛潔星	女	對外經濟貿易大学	金融学院	金融工程
団 員	王 璐	女	對外經濟貿易大学	国際商学院	会計学
団 員	朱宸賢	女	對外經濟貿易大学	国際經濟・貿易学院	金融学
団 員	曾 欣	女	對外經濟貿易大学	国際商学院	財務管理
団 員	艾力克斯・肉孜	男	北京語言大学	東方語言文化学院	日本語
団 員	邱侶萍	女	北京語言大学	東方語言文化学院	日英複数言語
団 員	潘思妙	女	北京語言大学	東方語言文化学院	日英複数言語
団 員	張一帆	女	北京語言大学	東方語言文化学院	日本語
団 員	何沛霖	女	北京語言大学	東方語言文化学院	日英複数言語
団 員	余夢潔	女	首都医科大学	基礎医学院	臨床医学
団 員	孫立瑩	女	首都医科大学	中医薬学院	中国医学
団 員	蓋 峰	男	首都医科大学	基礎医学院	臨床医学
団 員	林慧欣	女	首都医科大学	基礎医学院	基礎医学
団 員	欧雯欣	女	首都医科大学	基礎医学院	臨床医学(小児科方面)
団 員	範伯陽	男	外交学院	外語系	日本語
団 員	盛 悦	女	外交学院	外語系	日本語
団 員	王思嘉	女	外交学院	外語系	日本語
団 員	劉知雨	女	外交学院	外語系	日本語
引 率	郭潔威	女	外交学院	外語系中国共青団の総支部委員会書記、指導員	
事務局	王 麟	男	中国日本友好協会	都市・經濟交流部副部長	
事務局	曾広明	男	中国日本友好協会	政治交流部職員	

第22回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察日程

日次	日付	日 程	宿 泊
1	5/29 (火)	14:20北京→18:20 関西 (NH980便) 18:20 関西国際空港着 19:30～20:30 夕食:関西空港 20:30～22:00 夕食後京都へ移動 22:00 ホテル着	京都 新・都ホテル
2	5/30 (水)	8:45ホテル発 9:30～12:45 ●企業訪問 ①京セラ (含む昼食、社員食堂) 移動 14:00～19:45 ◎大学交流 ① (含む懇親会) 京都大学 20:15 ホテル着	京都 新・都ホテル
3	5/31 (木)	8:00ホテル発 ★ソフト文化視察 ① 京都 9:00～10:00 嵐山 (周恩来記念碑) 10:30～12:30 高台寺茶道体験及び座禅体験 昼食:京都市内 14:32京都→16:35小田原 ひかり524 (新幹線体験) 17:30 箱根湯本温泉着 ★温泉体験 夕食:温泉旅館内にて和食会席料理	箱根湯本温泉 箱根天成園
4	6/1 (金)	8:00ホテル発 9:00～12:30 ●企業訪問②テルモメディカルプラネックス(含む昼食) 14:00～15:30 ●企業訪問 ③ 凸版印刷博物館 16:30～19:45 ●企業訪問 ④ 住友商事 (含む懇親会) 20:15 ホテル着	東京 ホテルニューオータニ
5	6/2 (土)	終日 学生ホームステイ	学生:ホームステイ 東京 引率者:ホテルニューオータニ
6	6/3 (日)	夕方まで学生ホームステイ 夕方 ホテル集合 東京都内自由行動	東京 ホテルニューオータニ
7	6/4 (月)	9:00ホテル発 9:30～11:30 ●企業訪問 ⑤三井住友銀行 12:00～13:30 ★ソフト文化視察 ②日比谷松本楼 (含む昼食) 14:00～15:30 ●中国大使館訪問 16:30～19:45 ◎大学交流 ② (含む懇親会) 早稲田大学 20:30 ホテル着	東京 ホテルニューオータニ
8	6/5 (火)	9:30～11:00 ●企業訪問 ⑥ ホテルニューオータニ エコ視察 12:00～13:45 歓送会 (ホテルニューオータニ) 14:00 ホテル発 羽田空港へ移動 15:00 羽田空港着 17:20羽田→20:10北京 (NH963便) 20:10 北京首都国際空港着 (到着後、自由解散)	

第22回中国大学生「走近日企・感受日本」訪日団視察先出席者リスト

1. 京セラ

後藤雄次	京瓷(中国)商貿有限公司	董事・総経理
馬志麗	同上	副総経理
馬国慶	同上	市場部(マーケティング部)副部長
吉川英里	京セラ	広報室長
許太玲	同上	広報室 海外広報課
鬼頭今日子	同上	総務人事本部 秘書室 名誉会長秘書課 副責任者

2. 京都大学

川添信介		副学長・理事(学生・図書館担当)
河野泰之	国際戦略本部 東南アジア地域研究研究所	副学長(国際戦略担当)、国際戦略本部長、教授
吉田万里子	国際高等教育院	教授
韓立友	国際高等教育院	准教授
山本淳司	国際戦略本部	担当部長(兼)副本部長
尾形里加	教育推進・学生支援部	国際教育交流課 課長
林和彦	同上	課長補佐
植村五枝子	同上	海外留学掛長
城野真衣	同上	海外留学掛員
于再治	京都大学PUKU実行委員会、工学部4年生	
他 京都大学生17名		

齊藤健一		コーディネーター
吉田浄		同上

3. テルモ

三村孝仁		代表取締役会長
真鍋智子	テルモメディカルプラネックス	センター長、執行役員
桧山義雄	同上	副センター長
須山遼太	同上 企画推進チーム	
西山佳夫	国際部	中国事業渉外役 兼 人事部 キャリアアドバイザー
李文龍	心臓血管カンパニー TIS事業 営業部門(日本)	セールスマーケティンググループ
潘悦		通訳

4. 凸版印刷

本田和秀	北京事務所	首席代表
中西保仁	広報本部 印刷博物館	課長
于播	文化事業推進部コミュニケーション 企画部 VRシアター企画運営チーム	主任

王岐	経営企画本部 グローバルビジネスセンター	主任
----	----------------------	----

5. 住友商事

大野茂樹	サステナビリティ推進部	部長
三浦由美子	同上	社会貢献チーム サブリーダー 部長代理
菅谷百合子	同上	社会貢献チーム 事務主事
畑田好朗	グローバル業務部 国内・東アジア・アジア大洋州チーム	部長代理
趙涛	同上	参事
貞川晋吾	住友商事グローバルリサーチ(株)国際部	シニアアナリスト
楊方	グローバル人材マネジメント部	副部長
宋誠超	アニマルヘルスサイエンス部	参事
張皓々	ケーブルテレビ事業部	部長代理
東巍	SCSK(株)	理事、中国アジア統括

(住友商事 社員12名)

6. 三井住友銀行

國賀久徳		顧問
藤盛耕嗣	国際統括部	部長
田中慈恵	国際統括部 業務推進第二グループ	部長代理補
金秋霞	同上	
肖蘇原	国際金融法人部 クリアリング推進グループ	

7. 日比谷松本楼

小坂文乃		代表取締役社長
今井康雄	営業部	部長

8. 中国大使館

律桂軍	国際及び地域部	公使参事官
邵宏偉	友好交流部	一等書記官
潘林	同上	二等書記官

9. 早稲田大学

白木三秀	政治経済学術院	教授
石倉拓一	国際部 国際課	
沈向琮	同上	

白木ゼミナールの皆様

10. ホテルニューオータニ

山川剛	関西営業所	所長
平野力也	同上	グループリーダー
田島浩一	宿泊営業部	セールスコーディネーター、マネージャー

山田聡	料飲営業部 料飲営業一課	シニアセールスマネージャー
亀吉保	宿泊営業部 国内営業課	統括支配人
三浦光昌	ファシリティマネジメント部	
	ファシリティマネジメント課	課長

企業と哲学-京セラ

清華大学学生代表

見学日時：2018年5月30日（水）09:30-12:45

見学場所：京セラ

見学概要

京セラ社のホールに足を踏み入れると、まず二階の会議室に通じるエスカレーターが目に入った。日中両国では外出の際の習慣が異なるが（日本は左側、中国は右側）、私たちはすぐさま日本の習慣になじみ、自発的にエスカレーターの左側に立ち今回の見学を始めた。

はじめに私たちは会議室を訪れた。そこでは同社のスタッフがすでに私たちを出迎えていた。そして双方からの挨拶の後、鬼頭今日子女士からビデオや資料を使った京セラについての紹介があり、私たちは同社の状況や沿革などについておおよその理解を得ることができた。



京セラの代表者からの歓迎のあいさつ

その後私たちは二班に分かれ、それぞれスタッフの引率の下ファインセラミック館の見学を行った。ファインセラミック館では人工膝関節から環境に優しいプリンター、そしてセラミック基板からセラミック工芸品など同社の様々な製品を目にし、同社の製品があらゆる分野に及んでいるというその創造力の高さに私たちはとても驚かされた。



スタッフからの紹介に真剣に耳を傾ける

各種製品の見学を終えた私たちは、京セラの創業者である稲盛和夫氏に関する稲盛ライブラリーを訪れた。館内には「敬天愛人」と書かれた横額が掛けられ、稲盛和夫氏の哲学や理念についての紹介を行っていた。私たちは創業当初から時間を追って稲盛和夫氏の生い立ちについて理解を深めた。今日に至るまでには様々な困難があったが、強靱な意志と最良を目指すという哲学そして理念により、稲盛和夫氏は京セラを成長させ、今日では非常に大きな影響力を持つ大企業となっている。

次いで私たちは京セラ美術館を訪れた。その他の美術館とは異なり、京セラ美術館において展示している絵画は名作と呼ばれる昔の絵画ではなく、現地の画家による水彩画がメインになっている。これらの作品は明快なタッチで色鮮やかに描かれているが、それ以上に重要なポイントとしては、京都各地の自然景観や文化的景観を題材としていることから非常に生き活きとしている。これらの作品を通じて、実際にその場にいらなくても桜の時期の京都や鴨川の風景を感じることができた。



京セラの社員食堂を体験

最後に私たちはスタッフの引率の下、社員食堂に向かい同社のランチを体験した。食堂自体は大きいわけではないが、ラーメン、カツ丼、セットメニュー、付け合せなど様々な食事を提供しており、食堂内は温かい雰囲気ながらも整然としていた。鬼頭今日子女史のお話から、ここのランチはコストパフォーマンスがととても優れており、約 20 人民元相当で美味しい食事がとれ、他所に比べ非常に安いことを知った。そして食事を終えた私たちは京セラの皆さんと記念写真を撮り、この度の楽しかった訪問を終えた。

なぜですか？

問：京セラの製品は多くの分野に及んでいることから、会社としても各分野の人材を必要としていると思うが、京セラとしては大学生に見学や職場実習といった機会を提供するなど各大学との提携を行っているのか？

答：提携を行っている。京セラにはあらゆる分野の人材がいるからこそ、絶えず革新や進歩をすることができる。私たちの多くの製品には最先端の科学理論が求められるため、私たちは日頃から大学の実験室との提携を行っている。もちろん、私たちとしても優秀な大学生を受け入れており、毎年複数の中国人学生も審査や面接を通じて京セラの仲間入りをしている。

問：京セラの人工膝関節は実際の人間の膝関節のように動くのか？運動好きな人はこの人工膝関節で運動をすることができるのか？現時点において、中国の病院でも京セラの人工膝関節により患者への治療を行っているのか？

答：セラミックと人体の筋肉には優れた互換性があるため、人工膝関節は膝関節の代わりをすることができる。一般的な運動であれば人工膝関節への負担はない。現時点では医療設備の導入に政府側の長期間の審査を要するため、中国ではまだ当社の人工膝関節は利用されていないが、日本ではすでに多くの病院において患者の治療に利用されている。

問：京セラの太陽光パネルはすでに日本各地で使用されクリーンな電力を供給している。しかしこの技術には多くのシリコンが必要で、またシリコンの市場価格も高いことから、太陽光発電は従来の発電に比べ価格競争力に欠けるのではないのか？

答：確かにコスト面から見ると、太陽光発電は従来の発電方法よりコストが高いが、私たちが太陽光発電を広める過程においては政府もまた相応の助成を行うため、価格的には大きな違いはない。また今後の技術の発展に伴い、私たちは両者の価格は近いうちに同レベルになると見ている。その折には太陽光発電は次第に市場シェアを獲得し、これまで以上に環境に優しい世界の構築に貢献すると考えられる。

感想

日本には多くの長い歴史を持つ企業が存在し、それらの企業が今日まで存続しているのはきっと何かしらの理念を守り続けているからであり、京セラも例外ではない。稲盛和夫氏が京セラを創業して以降に下した様々な意思決定はいずれも自身の原則に則ったものであり、つまりいかなる時代にあっても終始「敬天愛人」の理念を守り通してきたのである。

このことから、一企業の成否は表向きにはその経済効率に基づくが、実際にはその経営理念により判断されなければならない。強い精神力と正しい哲学そして理念があれば、小さな企業でも発展ができ、いずれは大きく成長することができるのである。



清華大学生の集合写真

京都大学にて

北京語言大学学生代表

見学日時：2018年5月30日（水）14:00-19:45

見学場所：京都大学

見学概要



午後2時、私たちは京都大学に到着した。

まず私たちは京都大学の教室に向かった。そこでは中国籍の教授から、京都大学の悠久の歴史から現在の学生の活動そして学術的成果まで詳しい紹介を受けた。その中でも建学以来守り続けている「自由の学風」についてはさらに踏み込んだ紹介があり、私たちは新たな学術的雰囲気を体感することができた。

約2時間の紹介の後、私たちは事前に決められたグループに分かれ、京都大学の日本人学生と1時間の討論を行った。討論のテーマは人工知能、日中両国の対外貿易、日中文化、環境問題など様々であった。討論の後、私たちは大講堂に移動し、各グループの中国人学生と日本人学生が一人ずつ代表として討論の成果を発表した。

討論の発表が終わった後、懇親会が始まった。懇親会には京都大学の役員や教授そして日本人学生の他、訪日団からは団長や先生方そして私たち学生が参加した。



なぜですか？

問：京都大学にはなぜ日本国旗が掲揚されていないのか？

答：中国の大学には中国国旗が不可欠であるのとは違い、京都大学では日本国旗を目にすることはない。なぜなら、彼らは学術とは独立、自由そして開放的であるべきで、政治や国境により制限されるべきではないと考えているからである。京都大学は「日本の大学」ではなく、「知識や真理を求める大学」である。

問：日本における黄砂はすべて中国からやってくるのか？

答：すべてというわけではない。マスコミの影響からか多くの日本国民は黄砂がすべて中国からやってくると思っているが、実際はそうではない。その理由は中国と日本は海で隔たれているため、黄砂の大部分は日本にたどり着く前に海に落ちる。また夏の風向きは日本から中国に向かうため、中国に黄砂があっても日本に飛ばされることはない。（→壱学生の個人的見解）

感想

京都大学の自由の学風は最も印象深かった。同大学の先生のお話では、京都大学では学生等には言論の自由があり、自らのあらゆる主張や見解を自由に発信することができる。また言論の自由を脅かすものを除くすべての言論は認められている。教授に対する評価基準も論文の数ではなく、彼らは自分の研究したい分野の研究を続け、わずかな数の論文発表でも構わない。京都大学では論文の数よりもその質や興味を重視しており、また功利的ではないため、学者が何代にもわたって同じ研究を継続することもある。この点については中国の大学とは明らかな違いがある。私たち中国の大学も「自由の学風」から学び、中国の学术界をこれまで以上に自由に、また知識ある学者らがじっくりと研究できるようにしてはどうだろうか。

医療を通じて社会に貢献する

首都医科大学学生代表

見学日時：2018年6月1日（金） 9:00-12:30

見学場所：テルモ株式会社（テルモメディカルプラネックス）

見学概要

6月1日、訪日団は熱烈的な歓迎の中、テルモメディカルプラネックスを訪れた。ここではまず同社の歴史、経営理念そして事業範囲等について詳しい紹介があった。その後私たちは同社製品の展示室の他、ホスピタルスタジオ、模擬居宅そして医療従事者が血管内治療、人工心肺、透析等の研修を行う手術室などを見学した。

なぜですか？

問:テルモという社名の由来は？

答:「テルモ」という社名は体温計のドイツ語読み「テルモメーテル(THERMOMETER)」に由来している。テルモ創設以来、約40年間、体温計は同社の主力製品で、その後、様々な医療機器、医薬品等を製造・販売している。



問:テルモのステントの設計上のポイントは？

答:ステントにおいて二つの独自技術を応用している。一つは独特な編み目構造で、ヘビの鱗の形状からヒントを得たステント形状により血管追従性を高めている。もう一つは薬剤溶出型ステントのコーティング技術で、血管壁側表面のみに多層に薬剤をコーティングすることで、薬剤分布は維持しつつ、剥がれにくくしている。

感想

医学を学ぶ学生として今回医療機器を製造する企業を訪問できると知った時は心から感激した。そして実際にテルモ社に足を踏み入れ、私たちはまずダークカラーの建物と緑豊かな環境に衝撃を受けた。そして建物内の彫刻や絵画などはいずれも、ここが医療機器の研究施設というだけではないことを私たちに伝えるかのようであった。より正確に言えば、テルモは単に医療機器の製造だけに従事しているのではなく、「医療を通じて社会に貢献する」、科学技術とヒューマンケアが結びついた企業である。創業当初の赤線芯入り着色体温計から現在の透析研修用に作られた腕の模型、そして先天性の糖尿病患者の苦痛を和らげるために作られた世界最細のインシュリン注射針など、これら

はすべて「Innovating at the Speed of Life(いのちに寄り添う、イノベーションを目指して)」という世界的ビジョンに向け努力を続けた成果である。

安全性を確保したホスピタルスタジオ内の輸液ポンプや閉鎖式輸液システムは、医療スタッフによる輸液状況の遠隔監視を実現し、管理における利便性を高めている。また通信機能を持つ血糖測定器、血中酸素飽和度測定器、血圧計などは患者の日々のバイタルサインの速やかで効果的な管理を実現するなど、テルモは未来の医療における科学技術の重要性を示すだけでなく、素晴らしい未来図を現実のものにしている。これらは科学技術と医療の真の融合を私たちに示すものである。

今回私たちが特に印象深かったのは、子どもの輸液ポンプ用に設計されたシリコンゴム製のうさぎ型カバーで、可愛い二つの長い耳はきっと子どもの病院への恐怖心を和らげるだろうと思った。

ヒューマンケアから科学技術、科学技術から医療まで、テルモは未来の病院の在り方を示すと同時に、私たち将来の医療従事者に対しても新たな要求を突き付けている。優れた医療技術と細やかな患者への配慮をいかに両立するか、いかに患者の立場に立つか、これらは私たちが今後長い期間にわたり考えるべき問題である。



凸版印刷の文化と現代化

中国人民大学学生代表

見学日時：2018年6月1日（金）14:00-15:30

見学場所：凸版印刷博物館

見学概要

東京の湿り気を帯びた夏の風の中、私たちはうらかな午後に凸版印刷博物館を訪れた。

館内に入り、私たちはガイドの案内の下凸版印刷の百年の成長の歴史を目の当たりにした。ここでは時間軸に沿って凸版印刷の百年における製品の進化や発展の状況が展示されていた。ギャラリーの前半部分ではガイドから主に凸版印刷株式会社の沿革、企業文化、創始者についての紹介の他、印刷業の発展についてのお話があった。後半部分では同社の科学技術の粋を集めた製品の体験があり、私たちは目新しい表情識別システムの他、人工知能設備なども目にした。

ギャラリーの見学を終え、私たちはVRシアターに向かった。そこでは先進的な操作システムを通して自在な視点からの映像を観賞した。私たちにとってこうした体験は初めてのものであった。

最後に私たちは印刷文化の歴史について見学した。そしてDIYの記念品を制作し、楽しく充実した見学を終えた。



なぜですか？

凸版印刷は当初、印刷企業として事業を展開していたが、100年余りの発展を経て、現在では包装、セキュリティ、電子デバイス、デジタル画像生成及びライトガイド等の分野において幅広く事業を行う一流企業となっている。また一見すると、従来の印刷と新興の情報通信とは何の関連もないように感じられるが、凸版印刷は企業の発展において自らの経営モデルを見出し、フォーチュングローバル500社に入るなど名高い存在となっている。



感想

意義深い見学とは、往々にして出会う人や体験する事柄と関係がある。凸版印刷の経営モデルの紹介の際、ガイド自身、自社に対する自らの考え方などを交えていた。この点から日本企業の従業員の自らが所属する企業への帰属感や思いを感じることができた。見学もまた非常に楽しかったが、これは人工知能がもたらす目新しさや楽しさだけでなく、私たちの生活における利便性を大きく高める科学技術の発展の速さへの感慨という一面もあった。凸版印刷の事業分野は様々な産業に及び、多くの著名な大企業が顧客となっており、アウトソーシング、資本管理、イノベーション経営等は凸版印刷を大きく成長させた要素となっている。

世界を観る、世界観

外交学院学生代表

見学日時：2018年6月1日（金）16:30-19:45

見学場所：住友商事株式会社

見学概要

1. 企業概況

住友商事株式会社は日本の著名な総合商社である。1919年に創立、戦後は貿易事業に従事し、1952年に現在の住友商事株式会社に改称した。同社は世界各地において積極的に事業を展開しており、各産業分野において事業投資を行い産業の構造転換と高度化を促進し、輸出入及び対外貿易により世界の各国・各地域の消費者に多彩な製品や販売サービスを提供し、さらに国内外での事業投資において同社独自の総合力や競争力を高めるなど事業分野を絶えず拡大している。同社はまたCSR活動に力を入れており、社内関係部署や国内外地域組織・グループ会社と連携し、経済、社会及び環境等の面での発展に貢献している。

2. 見学記録

充実したスケジュールであったこの日、ついに最後の訪問先である住友商事株式会社に到着した。建物内に入ると、一種の高級感のようなものを感じた。その後会議室に入り同社の紹介が始まった。まずサステナビリティ推進部の大野茂樹部長より歓迎のあいさつがあり、次いで貞川晋吾シニアアナリストより住友商事の概況の紹介があった。今回住友商事を訪れるまでは「総合商社」というものについては何の概念もなかったが、貞川氏の紹介により私たちは総合商社におけるいくつかの特徴について知ることができた。その特徴とは第一に事業展開する商品が多いということで、住友商事では様々な業界分野において事業を展開している。また第二にグローバル化・多様化した貿易形態ということで、日本国内のみならず世界各地において輸出入、三角貿易及び事業投資などを行っている。そして第三に巨額の売上高そして巨大な経営規模ということである。以上をまとめると、住友商事は貿易や事業投資を事業における二つの中核とし、時代の発展や変化に絶えず適応し、企業の機能や役割を調整することで時代をリードする事業を生み出している。次に、グローバル人材マネジメント部の楊方副部長より同社が人材に対して求める要素についての紹介があり、同氏曰くリーダーシップ、協調性、人脈そして職業倫理はいずれも重要であるとのことであった。また、その他の企業と異なり住友商事では人材の特徴の違いを踏まえ、それぞれに個別の長期的発展プランを定めている他、人材備蓄や持続的発展メカニズムも有している。これは一般の中国企業においては聞いたことがないものであった。最後に、同社において最前線で活躍する中国人スタッフが私たちと交流を図り、彼らの実体験を通じ私たちはよりよく理解ができた。その中でアニマルヘルスサイエンス部の宋誠超参事は日本文化の紹介を通じ日本の企業文化の分析を行い、日本企業が企業の寿命、信用及びチームワークを重視しているため、長期的発展、多元的目標そして人材育成を追求しているとのことであった。その後私たちは27階において住友商事のスタッフとの懇親会に参加し、皆は楽しく交流を図った。



学生からの質問に答える楊方副部長

SCSK 株式会社理事の東巍氏からの東アジアビジネスに関するお話の中では、1992年に同氏が上海に派遣され、ある時電子レンジを使用していて、レンジ内に置いたコップの取っ手が30秒の使用の後に当初の位置になっていないことに気が付いたとのエピソードが紹介された。日本では設定時間の長さを問わず必ず当初の位置に戻る。こうした一見些細な点は日本企業が可能な限り顧客の立場に立ち、使用者へ配慮し、顧客の要望を踏まえ製品の開発と改善を行っていることを示している。



感想

住友商事においての最大の収穫は広い視野を持つことの重要性を知ったことである。宋誠超氏の言うところの「世界を観る、世界観」である。グローバル化が日々高まる今日において、世界各国のつながりはより密接になり、国家や民族だけにとらわれる発想は狭量で恐ろしいものである。私たちは遠くを見据え、広い視野を持ち、自らの無限の可能性を見つける必要がある。そして絶えず自分を高め、リーダーシップや協調性といった素養を持つ国際的な人材となるべく努力しなければならない。またそれと同時に、次世代の青年としての社会的責任感、社会に還元するという意識や理念を持ち、全人類のより良い生活のために自分なりの貢献をしていく必要がある。

より高品質な総合金融サービスを追求する

対外経済貿易大学学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）09:30-11:30

見学場所：三井住友銀行

見学概要

三井住友銀行(SMBC)は日本の三井財団と住友財団における中核企業であり、2001年に住友グループの住友銀行と三井グループのさくら銀行の合併により設立された。また2002年には三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)が設立され、日本最大規模の金融グループの一つとなり、商業銀行、リース、証券、消費者金融等の金融サービスを提供している他、2010年にはニューヨーク証券取引所において上場を果たしている。



日本の銀行の中でも最大規模の国内及び海外支店ネットワークそして時代の変化に対応可能な強力な戦略調整能力を有する三井住友銀行は、その規模と各支店との協力によりグローバルな金融サービスを提供している。そして「お客さまに、より一層価値あるサービスを提供し、お客さまと共に発展する」、「事業の発展を通じて、株主価値の永続的な増大を図る」、「勤勉で意欲的な社員が、思う存分にその能力を発揮できる職場を作る」を経営理念とし、グローバルで、信用度の高い、競争力のある金融サービスグループとなっている。

6月4日午前9時30分、私たちは定刻通りに三井住友銀行の本店に到着し、ここでの約2時間の見学を開始した。その際の國賀顧問や藤盛部長のお話からは、三井住友銀行の専門性や総合性への追求といったものをはっきりと感じることができた。またある中国人スタッフからのお話の後、私たちは東京勤務の感想やキャリア構築に関する問題について質問をした。

その後、私たちは三井住友銀行本店一階のロビーを訪れた。そこではまずロビー内の植物に目を奪われ、さらに世界各地の情報を検索できるデジタル地球儀とPepperというロボットも私たちの興味を引いた。その紹介に耳を傾けた後、私たちは直にデジタル地球儀の優れた性能を体感し、さらにロボットとも交流を図った。



最後に、私たちは二階の金融／知のランドスケープを訪れた。そこでは複数のモニタにより銀行の発展過程などをユニークに紹介していた。

なぜですか？

問：三井住友銀行の前身は？

答：三井グループは約 350 年前に創設され、その当初から金融に関する事業を行っていた。1673 年から京都で製作した和服を東京(当時の江戸)で販売することで多くの収益を得て、それらが同グループの資金源となった。そして住友グループは約 400 年前に創設され、当初は銅鉾山の経営で収益を得て、その後両替、融資、送金等幅広い事業を行い、次第に日本屈指の事業グループとなっていた。

問：東亜銀行と三井住友銀行はどういった関係なのか？中国金融市場の開拓においてどういった役割を果たすのか？

答：東亜銀行における三井住友銀行の出資比率は高く、すでに東亜銀行(総資産は香港で 5 番目)の最大株主となっている。東亜銀行は中国本土において支店ネットワークを拡充しており、すでに 110 の支店を有している。そうした東亜銀行の実情を交え、三井住友銀行は外資系銀行において最大規模の支店組織を有している。三井住友銀行は東亜銀行との提携強化を通じて中国企業との取引を拡大するなど、中国市場における成長を目指している。

問：「住友グループ社長会」をなぜ「白水会」と呼ぶのか？

答：住友家初代の住友政友は今から約 400 年前に京都において「富士屋」の屋号で書物と薬の店を営み、政友の義兄の蘇我理右衛門は同じく京都において銅吹きと銅細工の店を開業、「泉屋」と称した。その後、理右衛門の子が住友政友の娘婿となり、住友友以と改名、さらに「富士屋」と「泉屋」を合併し、今日の住友グループの基礎を構築した。「白水会」の白水は「泉」の字を上下に分けたことが由来である。

問：三井住友銀行の中国での発展の状況は？

答：三井住友銀行(中国)有限公司(SMBCCN)は、三井住友銀行の完全子会社で 2009 年に設立された。主に中国本土地区において様々な銀行業務を行っている。

問：三井住友銀行における外国籍従業員の比率は？

答：0.5%。

感想

三井住友銀行の見学を終え、最も印象深かったのは同銀行が二つの面で示した総合性であった。その一つは環境、科学技術と金融の融合、もう一つは人材育成、人材の総合的能力への重視というものであった。私たちのこれまでの観念における金融というのは、高くそびえる摩天楼、慌ただしい証券取引市場に関連するものであったが、三井住友銀行が示したのはそれとは全く異なるものであった。

ロビー内の庭園のような植生、タッチパネル式のデジタル地球儀が示す世界各地の様々なデータ、ロボットによる会社紹介などは、いずれも私たち一人ひとりに日本企業の「総合力」を感じさせるものであった。私はこうした点こそ日本企業が 100 年以上の安定経営を実現できる理由であり、また従業員のひたむきな業務態度が示す専門性と企業の技術イノベーションや環境対策への努力が示す総合性は三井住友銀行が今後もさらに持続的な発展をする上での原動力となるものであると感じた。



また三井住友銀行の人材育成は、人材の働きを最大化するもので、各従業員の特性を踏まえ能力を強化し従業員の国際的視野を構築することで従業員の総合能力を高めている。こうすることで、経営において問題が発生した場合に、従業員一人ひとりがその能力を発揮し、単独で対応をすることができる。

アジアの金融の中心である日本は四度の金融危機を経験した後も依然として大きく成長を続けている。私はこの点については日本企業の総合能力への追求と密接な関わりがあると思う。そして現在、中国と日本は金融分野での協力を進めており、通貨スワップ等の金融分野での革新もまた両国の利益的繋がりをより高めている。中国の銀行もまた三井住友銀行の優れた点に学び、金融リスクへの適応能力を高めることで、中国が真の金融強国となることを願っている。

友情に国境はない

首都医科大学学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）12:00-13:30

見学場所：日比谷松本楼

見学概要

私たち訪日代表団一行は6月4日昼に日比谷公園内の松本楼を訪れた。日比谷公園は銀座から近く、その周囲は高層ビルが立ち並び、公園内の多くの樹木の陰にひっそりと佇む松本楼は、まるで都会の中のオアシスの様相を呈していた。松本楼にて私たちは優雅な昼食をとり、その後梅屋庄吉氏の曾孫である小坂文乃女史からの100年以上前の孫文氏と梅屋庄吉氏との国境を越えた友情についてのお話を拝聴した。

なぜですか？

問：ホールに置かれたこのピアノにはどのような物語があるのか？

答：このピアノは梅屋庄吉氏が自身の娘のために買ったものである。宋慶齡女史はピアノの演奏がとても好きで、日本滞在期間中はいつもこのピアノで演奏をしていた。その後ピアノを松本楼のホールに展示した。



問：梅屋庄吉氏はどのようにして孫文氏と出会ったのか？

答：梅屋庄吉氏は孫文氏と香港で出会った。革命を目指す両氏は出会ってすぐ意気投合し、その後義兄弟の契りを交わした。

感想

日比谷松本楼において私たちは国境を越えた一つの友情を目にした。「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援す」、この誓いが梅屋庄吉氏と孫文氏の友情を形成した。写真館の経営や映画事業を通じて財を成した梅屋庄吉氏は、武器や飛行機の購入、パイロットの訓練など孫文氏の革命事業のために非常に多くの貢献をした。

私たちが感心するのは両氏の心の広さである。あの激動の時代の中、相手の国籍や出身を問わず互いに理解し合い、最後には同じ目標のために奮闘そして努力をしたのである。それは 100 年以上前であれ現在であれ、極めて貴いものである。

「抗戦の歴史を心に刻むことは民族間の憎しみを継続するためではなく、すべての人が平和の使命を担っていることを常に肝に銘じ、これまで以上に平和を大切にし、維持し、守り、平和発展の道を歩んでいくためである」、習近平総書記は反ファシズム勝利 70 周年式典のスピーチにおいてこのように述べている。私たちは梅屋庄吉氏や孫文氏に倣い、広い心を持ち日中関係に向き合わねばならず、わずか 50 年の対立によって千年以上続いてきた友情を失ってはならない。

私たちは日中平和友好条約締結 40 周年の折に日本を訪れ、日本の企業や大学と交流を図った。これは一種の「国境を越えた友情」ではないだろうか？ 私たちは今回の交流における収穫を中国に持ち帰り、多くの人に真の日本について伝えるなど、日中関係の緩和や両国間の誤解の解消に尽力したいと思う。

学び、手本とし、共に進む

外交学院学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）14:00-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

見学概要

今回の中国大学生代表団の中国駐日本国大使館への訪問では、まず国際及び地域部の律公使参事官から日中両国の古代から現在まで続く外交の歴史についての紹介があった。また日中両国の密接な歴史的関係と国交の状況、そして両国の友好関係の今後のさらなる発展への願い、及び未来の両国関係を発展させる上での主力である青年への期待が示された。律公使からのお話の後、清華大学、中国人民大学、首都医科大学、對外經濟貿易大学、北京語言大学そして外交学院の学生代表が、それぞれ今回の訪日における感想や収穫などを発表した。その後王占起団長からの総括があり、最後に私たちは公使と共に大使館のゲート前で記念撮影をし、大使館への訪問を終えた。



外交学院の範伯陽さんの発言の様子

新鮮な出来事：学生等は日本での感想や収穫の紹介の際に、いずれも日本の家庭の子どもへの教育方法と中国の家庭の教育方法との違いについて述べていた。中国国内ではほとんどの学生が一人っ子で、今回の訪日活動では日本の家庭の日常生活を体験し、さらに兄弟姉妹がいるという楽しさを感じることができた。しかしながら彼らとの交流において私たちは、日本の家庭では子どもは特別な「寵愛」もしくは寛大な待遇を受けていないことに気が付いた。彼らは家庭において、食事前に食器を並べたり、自分が使った皿を片付けたりといった自分がすべきことをしなければならない。それ以外にも彼らは小さい頃から譲ることを覚え、自分の兄や姉、ひいては父親や母親に好きなものを先に選ばせている。また非常に礼儀正しく、周りの全ての人を尊重している。そして彼ら自身も家族からのサポートに必要以上に頼ることはなく、可能な限り自分自身で問題を解決している。こうした学生等の感想からは、ホストファミリーの子ども等への称賛や驚き、それ以上に感動が感じられた。なぜなら私たちが体感したのは、日本の家庭の子どもへの教育だけでなく、日本国民の民族性と彼らの社会的集団意識だからである。

感想

今回の大使館への訪問にて私たちは二つの収穫を得ることができた。一つめは律公使からの日中の国交の歴史の紹介及び私たち青年に対する日中両国関係の推進への期待で、二つめは学生等の紹介にあった日本の家庭、社会及び民族性への感想であった。

充実したスケジュールの中、私たちは常に日本の社会、人々そして企業の特徴を体感し、それと同時に日本民族と社会の長所を目にすることができた。日中両国は地理的に一衣帯水で、歴史や文化についても源を同じくし、古くから交流をしているため、共同发展は一貫して両国関係におけるテーマとなっている。互いに学び合う上での前提は相手を深く知ることであり、今回の訪日活動は私たち大学生にとって日本をより良



く知る機会となった。学生等が感想を述べるコーナーでは、とある学生から日本の進んだゴミの分類や処理技術そして人々の高い環境保全意識についての話があったが、私たちとしてもこの点については印象深いものがあった。日本の国土面積は小さく、天然資源や石油・ガス資源が乏しいことから、こうした危機感の中、日本人は古くから環境保全意識と自然への畏敬の念を有している。市内の公園では、公共施設の建設が動植物の成長を妨げないよう電信柱が低く設計され、明るさもその他の場所とは異なっている。また日本のトイレ施設ではトイレトペーパーに水溶性の環境に優しいものが使われ、トイレトペーパーの製造にかかる伐採量やトイレ洗浄用水の節約につなげている他、清掃にかかる労働力も減らしている。路地ではゴミを見かけず、清掃作業員の姿も見かけない。反対にほぼ全ての住宅や店舗においては分別済みのゴミが置かれ、専門のゴミ処理スタッフが回収し処理を行う。日本の環境保全や省エネはすでに意識の段階から実際の行動の段階に移っている。彼らの自然に対する畏敬の念により、日本の森林カバー率は66%に達し、大気や水資源の品質も世界で上位となっている。

中国は経済が発展する中で環境への保護についても重視の度合を高めている。習主席は「緑水青山は金山銀山（豊かな自然こそ富である）」との考えを打ち出している。環境問題が深刻化している現在において、いかに友好国から経験を学ぶかは中国の持続可能な発展において重要な意義を持っているのみならず、日中両国が互いに学び共に発展していく上での大きな課題である。

青年の世界-早稲田大学

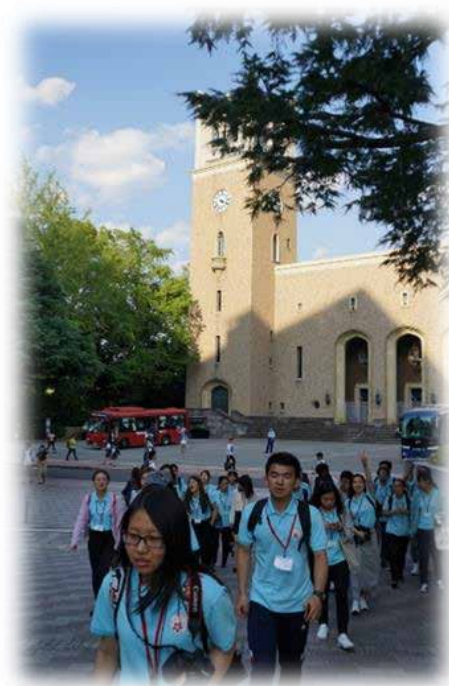
清華大学学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）16:30-19:45

見学場所：早稲田大学

見学概要

私たちはバスで、これまで多くの企業家や政治家を輩出してきた世に名高い著名学府を訪れた。まず目に入っただのは巨大な時計塔で、澄み切った青空とマッチしたその雄大な姿を私たちはこぞって写真に収めた。



訪日団一行の早稲田大学到着の様子

私たちが到着した時間は丁度講義終了の時間であったため、キャンパス内では楽しそうに歩く沢山の学生の姿を見かけた。彼らの表情はとても若々しく、見た目も京都大学の学生よりおしゃれであった。外の喧騒の中、私たちはとある講義棟に足を踏み入れた。建物の中はキャンパス内ほどざわざわとはしておらず、学生らは静かにしていた。私たちは引率の方について移動をし、途中セブンイレブンを通りかかると、その瞬間中国の大学キャンパスにいるような感覚がした。その後私たちは交流活動用の大教室に足を踏み入れた。そこではすでに早稲田大学の学生らが楽しそうにおしゃべりしながら私たちの到着を待っていた。その様子に彼らはとても活発で明るい人たちだと思った。

その後、白髪温顔の教授が交流会の司会を務め、私たちは英語と日本語に分かれて早稲田大学の学生とグループを作り、皆は簡単な自己紹介の後、楽しい交流を行った。

最初の討論テーマは卒業後に何をするかであった。討論において、私たちは早稲田大学の専門課程は通常「自然科学」と「社会科学」に分かれ、前者には中国で言うところの理科、そして工科が含まれ、後者には文科そして商科が含まれることを知った。また中国の学生と似ていて、一般的に自然科学を専攻する学生は、卒業後その多くが研究を続けるため修士もしくは博士課程に進み、社会科学を専攻する学生は、卒業後その多くが就職により経験を積む。

今回の交流に参加した早稲田大学の学生は政治経済を専攻していることから、理工系の私たちは自分たちと同じジャンルを学ぶ学生と接することはできなかったが、交流を通じて間接的に彼らの将来的ビジョンを知ることができた。その他私たちはインターンシップについても話し合い、その結果大学における採用活動やインターンシップ検索アプリ等を利用するなど両国共状況がとても似ていた。また同じグループのある早稲田大学の学生はすでにブルームバークからの内定をもらっており、今年後半から仕事を始めるとのことで、非常に優秀な学生であった。その後各グループはそれぞれの交流の成果を発表したが、ここではその内容は割愛する。



活発な討論の様子

二つめの討論テーマは大学における課外活動であった。私たち中国側の学生は自らの公益、スポーツ、ボランティア、文芸、科学面での活動を紹介した。実際のところ早稲田大学と中国の大学の違いはさほどなかったが、それでも異なる部分としては、早稲田大学の野球のレベルはとても高く、早稲田大学だけで3チームが存在するなど野球部は早稲田大学の中でも最大規模を誇っている。一方中国では野球は新しいスポーツという認識である。その後の各グループからの成果の発表では、朱宸賢さんが歌を、早稲田大学の学生がダンスを披露した。また孫震さんによるフリースタイルのスピーチも会場の皆や司会を務めた先生から好評であった。



代表者による発表の様子



学生代表と王団長によるスピーチの様子

交流会終了後、私たちは徒歩で大学近くのとあるレストランに向かい、そこでの懇親会に参加した。懇親会ではまず日中双方の代表者からの挨拶があり、王占起団長による「若者の友情」に関するスピーチは会場の皆から大きな拍手を受けた。その後日本側の代表者が懇親会開催を宣言し、皆は乾杯の後自由に楽しい交流を行った。この時の話題は先程までの討論会の話題に限らず、自由気ままな若者同士の会話であった。また日本側の学生の中に一名韓国人留学生在がいたことは早稲田大学の国際化度合を示すものであった。しかしながら、多くの日本人学生の英会話能力はさほど高くないことに私たちは気が付いた。その理由としては、高校や大学では筆記を重視しているため英語を実際に話す機会がほとんどないことから、自分たちの発音に自信が持てず発音もはっきりしないとのことであった。だがこうした現状は中国のそれと非常に似ているものである。もちろん一部の早稲田大学の学生は英語がとても流暢で、さほど流暢ではない学生でもジェスチャーを交えることで問題なく交流することができた。最後に私たちは名残惜しくも互いの連絡先を交換しお別れをした。今回は他人同士が偶然知り合った形だが、今後再会することもあるかもしれない。

なぜですか？

問：早稲田大学は企業家や政治家を多く輩出していることで有名だが、具体的にはどういった人物がいるのか？

政界：陳独秀や李大釗等中国共産党創始者及び初期の指導者、宋教仁や廖仲愷等中国国民党創始者及び指導者、野田佳彦等七名の日本国総理大臣。

実業界：ソニー、カシオ、サムスン、東芝、ロッテ、任天堂、ユニクロ等著名企業の創業者。

この他、村上春樹や羽生結弦といった中国人になじみ深い日本の著名人もかつて、そして今も早稲田大学で学んでいる。

問：日本には中国同様大学入試センター試験があるのを知っていますか？

答：日本の大学入試試験は2回に分けられる。最初は1月中旬の週末に行われる大学入試センター試験で、試験教科は国語、外国語、数学、理科(物理・化学・生物・地学)、地理歴史、公民となっている。センター試験は受験における最初の関門であり、ほとんどの受験生にとって極めて重要なものである。

センター試験の結果が出た後、受験生は2月に申請した大学が独自に行う二次試験に参加をする。大学毎に二次試験の日程が異なるため、受験生は複数の大学を併願することができる。

感想

早稲田大学の学生と交流をして最も印象深かったのは、京都大学の学生よりも社交的ということであった。もちろんこうした点は各学生の専攻や年齢とも関係しているであろうが、私は両大学それぞれの学風による影響もあると思う。個人的には京都大学はより自由な傾向にあるため学生も気ままだが、早稲田大学は実業界や政界の人材育成に重きを置くことからリーダーシップの育成が必要で、学生も社交性やコミュニケーション能力が求められているのだと思う。長期間自身の学校の環境のみに身を置くと周囲の状況が分からなくなりがちだが、実際に校風という影響も確かに存在すると思う。その他には、日中両国の学生には沢山の類似点があることが分かった。例えば英語に関する日中同様の筆記を重んじる問題点、また就職と進学の間での葛藤など、それらの類似度合は相違の度合よりもはるかに大きい。そのため、両国の青年が交流や理解を深めることでのみ、偏見をなくし、結果として両国の友好を実現できるのである。

新型の現代的エコホテルの物語

中国人民大学学生代表

見学日時：2018年6月5日（火）9:30-11:00

見学場所：ホテルニューオータニ東京

見学概要

ホテルニューオータニではすでに三日間宿泊し、今日はお別れの日である。この三日間同ホテルでは素晴らしい宿泊体験ができた。ここはまるで宮殿のようで、立派な建物は複雑且つ整然とした構造をしており、私たちは好奇心や嬉しさを感じていたが、今日の見学はさらに私たちの願いを叶えるものであった。

環境保全のメカニズムについて私たちは素人であったが、ホテルのスタッフからの丁寧で分かりやすく飽きさせない紹介により、私たちは同ホテルの環境保全のメカニズムについておおよその理解をすることができた。



スタッフの案内に従い、私たちは同ホテルの発電施設や污水处理施設を見学した。実際の見学は資料での紹介よりも直接的であり、発電機の実際の熱量や機械設備や污水处理における臭いを嗅ぐなど、あらゆる器官を使い、全体的にホテルニューオータニへの認識を深めた。これにはホテルの側面と共にホテルニューオータニの全貌を見た思いがした。

感嘆とどよめき以外に、私たちはまたこうした現代的ホテルがこれほどの環境保全意識を持ち、優れたサービスや広々とした構造と同時に、科学技術が多く活用されすべてが備わっていることに驚かされた。この他、ゴミに対する処理についても同様で、ホテルニューオータニでは再生可能資源であるゴミに対して系統的な処理が行われている。細かなゴミの分類、決まったタイミングでの科学的処理、そしてそれぞれの業務に対応するスタッフなど、これらがすべてを整然とさせている。この点については私たち中国の多くの組織が学ぶべきである。



その後、スタッフの案内の下、私たちはローズガーデンそして日本庭園を訪れた。同ホテルでの最終日、私たちはこのホテルの美しい風景を体験し皆で記念写真を撮影した。そして花の香りを愉しみ、石畳の道を歩き、小さな滝を見ながら帰国の途に就いた。

なぜですか？

ホテルニューオータニは都心にある日本トップのホテルであり、その優れたサービス能力により、各国のゲストそして大型のイベントにおける理想的な場所となっている。しかしその背後には強力な給電メカニズムそして環境保全措置が存在する。ホテルの地下は地上よりも複雑であり、入り組んだパイプラインや細かな業務分担が同ホテルにおける整然としたエネルギーや資源の再利用を実現している。また安全を守ると同時に経済効果を創造するなど一挙両得と言える。

感想

ホテルニューオータニは豪華で美しく、ここでの宿泊は私たちの充実した毎日に良い締めくくりをもたらすものであった。そして今回の見学では美しい夜景や快適な宿泊環境のみならず、ホテルニューオータニの強い環境保全意識と優れた環境保全技術が印象的であった。知ってのとおり、環境保全は私たち自身の責任であり、何から行うかは一見難しいが、行動に移すことでしかこの歴史的使命を果たすことができない。ホテルニューオータニはまさにこうした行動により自らの社会的責任を果たしており、環境保全もまた人類への持続可能なサポートとなっている。ホテルニューオータニはきめ細かなサービスを有しているが、全体的に見てこれも日本人の礼儀正しさ、勤勉さそして人当たりの柔らかさに裏付いている。私たちは見学時においてもこうしたものを体感し、また詳しい解説からはスタッフの情熱を感じた。こうした点は私たちが日本を知り、日本と関係を深める上で大きなサポートとなるものである。

学生たちの感想文から

学生たちは毎晩、一日のスケジュールを終えてから日記形式の感想文を書き、第22回訪日の記録とした。以下、その一部を紹介する。

日 付：5月29日（火）【1日目】

大学名： 清華大学

氏 名： 杜秉霖

期待に満ちた2時間のフライトを終え、この地に降り立つと嬉しさがさらに込み上げてきた。大阪の夜景からは神秘さと共に無限の活力が感じられた。

夕食のビュッフェの際、二つの点に感銘を受けた。一つめはその味の素晴らしさで、二つめはレストランの従業員のサービスの意識と態度である。彼らは常に笑顔で真心こもったサービスを提供していた。サービス業の本質はサービスであり、日本のサービス業が発展しているのにはそれなりの理由が確かに存在すると言わざるを得ない。彼らの真心に心を打たれた私は「ありがとう」の言葉とお辞儀を繰り返していた。楽しい環境や尊重の美德は他人を感化するもので、私たちもこうした環境の中、心からの感動を覚えた。

私の期待はさらに膨らみ、日本という国そして日本民族の特徴をより理解したくなった。

日 付：5月29日（火）【1日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 趙元培

この日、長旅の末私たち一行は関西空港に到着し、その後京都のホテルでの宿泊となった。道中、ガイドから日本の47都道府県の概況についての紹介があり、私たちはおおよその理解をすることができた。京都の家屋はそのほとんどが低い様式となっており、この点からは古都としての京都の建築様式の表れと蓄積を垣間見ることができた。またガイドの紹介を通じて私たちは日本人の礼儀正しさと思いやりの伝統について知ることができた。幼稚園の頃から教えられる「他人に迷惑をかけない」との理念が日本人に根付いていることから、日本社会における礼儀正しさという気風が形成されているのである。

ホテルに到着後、私はまたルームキーや注意書きなどからホテル側のゲストへの配慮を感じた。細部を大切にすることで大事を成すことができるのであろう。

日 付：5月29日（火）【1日目】

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 王璐

今の時刻は夜の23時15分、地下鉄、飛行機そしてバスを乗り継いでようやく新・都ホテルに到着した。日本については綺麗で洗練されているという印象を持った。街路ではゴミを見かけることはなく至るところが清潔で、部屋は小さいながらもスマートで、人への優しさと清々しさが感じられた。

明日は京セラと京都大学への訪問とのことで、本格的な訪問の初日をとても楽しみにしている。また沢山の収穫と共に京都についてさらなる知識が得られることを願っている。

日本に来る前までは、日本への知識は本やインターネットなどに限られていたが、今日こうして日本の地に降り立ちやっと日本への実感が得られた。今回優秀な先生方や学生達と共に未知なる美しい日本を知る機会が持てたことを心から光榮に思っている。

明日が楽しみだ。おやすみなさい！

日 付：5月29日（火）【1日目】

大学名：北京語言大学

氏 名：張一帆

今日は訪日初日で、私たちは全日空の便で日本を訪れた。

飛行機を降りた後の最初の印象は清潔というものであった。空港はとても清潔で、空気にも嫌な臭いはなかった。空港の敷地面積自体は北京首都空港ほど大きくはないかもしれないが、環境面については日本に学ぶ必要があると思った。特に預け入れ荷物の受け取り場所での「乗客の荷物へのやさしい取り扱い」は私たちが学ぶべきものだった。

空港を出ると清々しい空気を感じ、澄んだ夜空の星々や至るところの様々な植物は、見ていてとても心地良く、心が落ち着いていた。

その後、新・都ホテルに到着した。ホテルの環境やサービスはインターネット等での話にあったとおりとても行き届いたものであった。これには日本が人気の旅行先である理由が分かった気がした。外国人旅行者にこれほど細やかなサービスを提供するのは決してどの国や民族でもできることではない。

飛行機内では耳鳴り等で体調が芳しくなかったが、飛行機を降りてからは、隣国の日本について自分たちの目で見て感じられることについて、改めてとても意義深いことであり、また必要なことであると感じるようになった。「目に見えるものは真実とは限らない」という人もいるが、自らの目で見て感じることをせず他人の話を鵜呑みにしては、尚更真実を知ることにはできないのではないだろうか？

日 付：5月29日（火）【1日目】

大学名：首都医科大学

氏 名：欧雯欣

緊張、興奮、焦り、心配など様々な感情が入り混じっていた私はついに日本行きの飛行機に搭乗した。

全日空のキャビンアテンダントの素敵な笑顔は私の「複雑な」心情を多少和らげてくれた。日本は地理的に北方に位置しているが、ここの思いがけない湿度に南方出身の私は親近感が湧いた。日本に対しての第一印象は清潔さとやさしさであった。清潔な空港、やさしいサービス対応（ベルトコンベアの傍にとっても整然と置かれたスーツケースには驚かされた）、人にやさしいトイレ、その他まじめで親切なガイドの雪美さん、そして同行の先生方からのお世話により私は次第にここの環境に慣れてきた。レストランでの夕食では日本の食事は冷たい物が多いと感じたが、幸い私は美味しく食べることができた。

大阪から京都までの約1時間半の道程はとても楽しかった。お腹がいっぱいで車酔いを心配していた私だが、先生方そして学生達の自己紹介で楽しい時間を過ごすことができた。ガイドの雪美さんからは京都は盆地で小さな町のようだと話があったが、まさしくその通りで、道中目にするのは低い家屋、古い建物や高速道路傍の工場で、いずれも日本の緻密ながらも「ひらめき」を失わない特長が示されていて、コンビニ、バス停、アパートなどの様式に興味を引かれた私は、これらの特徴的な建物を目に焼き付けた。

初日の旅はとても疲れたが楽しいものであった。明日からの正式な訪問では、これまで本やテレビで見てきたのと異なったより多彩な日本を目にすることができることを願っている。

日 付：5月30日（水）【2日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 胡心縁

今日は本当にたくさんの収穫が得られた。

午前京セラの見学に向かう際、車窓の外はほとんど低い建物(時折高い建物)だったが、それらの建物の窓はとも透き通っていた。小雨の降る中、8時過ぎの路上には傘をさしたサラリーマンの出勤する姿が見られた。

そして京セラの本社に到着し皆さんから温かい歓迎を受けた。私たちは2階に移動した。1階と2階は外部に開放されている。その後紹介ビデオの鑑賞により私たちは京セラの事業の発展、製品分野そして企業文化などについて理解を深めた。次いで私たちはファインセラミック館を訪れ同社の発展の歴史について見学をした他、京セラの創業者である稲盛和夫氏の資料館では、同氏の生い立ちや人生そして経営に関する理念である稲盛哲学について理解を深めることができた。同氏は思考の力を信じ、また無限の情熱が人々の前進の原動力になることを信じ、同氏の勤勉さや情熱で社会に貢献するという精神は彼の人生のあらゆる部分に徹底されている。これには多くの収穫が得られたと同時に感服させられた。

その後私たちは京都大学を訪れた。韓立友准教授からの解説を通じて私は、京都大学は革新、真実への追求による精神的天国のような学府だと思った。ここは先を見通す目を持ち、京都大学の学生のために純粋で自由な学術・思想環境を創造していた。学生達との交流もとても楽しく、最初は堅苦しかったのが、最後には別れを惜しむほどの美しい友情を感じることができた。

時間が経つのは早く、あっという間に京都での最後の夜となった。明日改めてこの文化的古都の持つ魅力が感じられることを願っている。

日 付： 5月30日(水) 【2日目】

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 朱宸賢

朝、私たち一行は京セラ社を訪れた。整然とした建物からは沢山の想像がかき立てられた。文系の学生にとって精密機器の製造原理を理解することは非常に難しいが、ガラスケースに陳列された様々なセラミック製品を目にし、人工膝関節の大きな役割、セラミックの当初の原料から高価な物質への変化、そして鮮やかな色の深海用の地震探査機などには大きな衝撃を受けた。これはどういった頭脳で作られるのか？京セラは当初の28名のグループからどのように現在の業界トップの位置に上りつめたのか？この点について私は創業者の稲盛和夫氏の自らの欠点と長所を強調するという人生哲学と大きな繋がりがあると思う。さらに驚いたのは、一部の日本の企業には芸術品のショールームがあり、今回幸いにも「漫步京都」の画展を鑑賞することができた。そこでは質素な色調ながらも大きな幸福感が感じられた。

見学の最後に私たちは社員食堂で食事をとった。ここは高級ホテル並のレベルで素晴らしい景色を見ながら食事をすることができた。丁度食事時だったため、同社の社員も続々と食堂に入り食事をとった。だが食堂の光景は、賑やかながらも人の行き来がまばらで整然とした日本のレストランでよく見かけるものであった。

食事を終えた私たちは京都大学を訪れた。その途中で一つの川を見かけたがとても綺麗だった。京都大学では国際高等教育院の先生から京都大学についての詳しい紹介があったが、最も印象深かったのは学術の自由と緻密な研究という校風で、京都大学の学生が時計台に上りスローガンを掲げる「反体制行為」、公立大学の代表格として一つの銀行口座のみでの統一管理、教授の投票による学長選挙、リーダーになるのを嫌がる教授といった奇抜な光景、そして細胞の若返り、オランウータンの研究及びノーベル賞受賞者の数といったものにも驚かされた。

金融を学ぶ女子学生である私は、その後の学生との交流においても異なる国の学生の自由貿易や保護主義そして一帯一路、TPP等の発展モデルについての観点の違いを感じ、世界経済の動向を見る上でのあらたな視点が得られた。

ホテルのベッドに横たわり可愛らしいお姉さんや自転車に乗ったお兄さん等の姿を思い起こした。あの若々しさは本当に絵になると思った。

日 付： 5月30日（水）【2日目】

大学名： 首都医科大学

氏 名： 蓋峰

今日は京都での2日目で、主なスケジュールは二つあった。

午前からお昼の時間までは京セラでの見学であった。まず私たちは京セラ社の製品を見学し、ソーラーパネルから電子チップ等のセラミック技術がいずれも情報、環境、自動車等各方面で応用されている様子を目にした。その中で最も感心したのは、同社が代々製作してきた人工関節が、技術の発展によりその適用性が大きく高まり、臨床医療において広く使用されている点であった。その後私たちは京セラ創業者の稲盛和夫氏の経営理念である「アメーバ経営」、「リストラなし」、「人間として正しいことを正しいままに貫く」といったものから多くの収穫を得た。私はこれまで企業経営について漠然とした理解しかしていなかったが、稲盛和夫氏のこれまでの足跡から「理念」というものの企業の発展における指導的そして決定的役割を理解することができた。

午後私たちは京都大学を訪れ同大学の学生との交流を図った。私たちのグループは日中両国の環境問題について共に討論し、まとめと報告を行った。その際、日本もかつて大規模な環境問題に直面していたが、全国民の努力により改善を図ったとのことで、私にとっての最大の収穫は、環境問題において最も重要なのは社会全体の環境意識に対する誘導であることが分かったことである。

京セラの歩み、京都大学の自由な学風などはいずれも印象深かった。今後の旅でも多くの収穫が得られることを願っている。

日 付： 5月30日（水）【2日目】

大学名： 首都医科大学

氏 名： 林慧欣

今日は正式訪問の初日で、私たちは朝早くに起き準備を整えた後、指定の時刻に集合しこの日の訪問を始めた。

最初の目的地は、稲盛和夫氏が1959年に創業した京セラである。初期の技術投資製造業者から今日では電気通信関連、医療分野等にも精密部品を提供するなど、同社は創業以来一度の赤字も出していないことに私はとても驚かされた。だが同社の紹介を聞いた後私はその理由が分かった気がした。一つめの理由は京セラの哲学と理念である。稲盛ライブラリーに足を踏み入れると、「Commit to what is right as human beings (人間として何が正しいかをものごとの判断基準とする)」の言葉を見かけた。こうした人や心をベースとした経営は、人員を削減することなくオイルショックを乗り切ることもつながった。こうした点からは心の力の大きさがわかる。二つめの理由はアメーバ経営である。これは稲盛氏が生み出した経営モデルで、会社全体を複数のアメーバ組織に分け、独立採算をするというものである。こうした経営権の委譲方式は企業規模の拡大につながった。三つめの理由は最良を目指すという理念である。陶磁器の技術は中国を源としているが、日本は学び手本とする過程において、さらに深く突き詰め改善を加えるなど、活用法を徹底的に研究し磨きをかけている。

同様の精神は、午後に京都大学で教授のお話を聴いていた時にも感じられた。例えば京都大学の多くの教授は論文の数やインパクトファクターに関するノルマはなく、自らの興味に基づく研究を行うことができる。また学生の論文への要求は高く、修正に何年も費やした後に発表を行う。こうした中国以上の厳しさは、将来的に医学研究を目指す私にとって驚くべきものであった。この点は私たちも学ぶべきだと思う。全身全霊で研究に打ち込んでこそ、人類に幸福をもたらす貢献ができるのである。

紹介の後、私たちはグループ毎に京都大学の学生達と討論を始めた。私たちのグループのテーマは環境で、私は中国人学生の代表として双方の学生や先生方の前で新エネルギー、ゴミの分類また防護林等を含めた討論の総括を行った。京都大学の学生との意見交換の過程は私自身とても楽しかった。

経営理念であれ、また日本の若者の声であれ、今日は日本の独特な部分を知ることができた。その核心部分を吸収し長所に学ぶことで、中国の国有企業が長続きしない問題の解決にも運用できるかもしれないと思った。

日 付： 5月30日（水）【2日目】

大学名： 外交学院

氏 名： 王思嘉

午前はフォーチュン・グローバル500にランクインする京セラを見学し多くの収穫が得られた。創業者の稲盛和夫氏の稲盛経営12カ条もまた大いに含蓄があった。経済が不安定な時期に一人の従業員も解雇することなく今日まで発展を遂げてきたその道のりは非常に偉大なものである。そして同社の事業が電子部品、医療、自動車、航空、宇宙、テレビ・コンピュータ、携帯電話・通信、ジュエリー・アクセサリー等様々な分野に及んでいることにはとても驚かされた。また同社が追求する高効率、省エネ、エコ対策なども学ぶべきもので、社員食堂においてもベルトコンベアでトレイが回収され、以降の洗浄段階に運ばれるなど自動化レベルが非常に高かった。

午後は京都大学を訪れ、韓准教授の解説に衝撃を受けると同時に、視野の違い、思想の自由度の違い、精神的追求の違いを感じた。一方は全人類への貢献のため、もう一方は重要雑誌への論文発表のため、こうした両者の違い、広さと狭さは明らかである。自由な研究、革新や全人類の共同事業の発展に尽力する京都大学が育成する学生はまた同様に優秀であり、その点は彼らとの会話から感じる事ができた。また京都大学は施設面も整っていて、キャンパスに入るとすぐこの学風を色濃く感じる事ができた。今後も異国の同年代の人々との交流を通じ、彼らにとっての中国や世界の様子を知る機会が得られることを願っている。

日 付： 5月31日（木）【3日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 耿思博

この日のスケジュールは楽ではあったが時間的には長く、それぞれの場所に文化的内容が含まれていた。日本に来て三日目だが依然として心は興奮と楽しさに満ちていて、同行の彼らは私の今回の旅をより意義深くしてくれている。

雨が降った後の湿った空気の中、私たちは嵐山を歩き、周総理の詩を拝読した。周総理の詩からはリーダーとしての生活や人生、理想に対するおおらかさと粘り強さが感じられた。空山新雨后、天气晚来秋（人気のない山に新たに降った雨が上がった後、天気は夕暮れになるとすっかり秋の気配）、山中の清らかな風からは多少の涼しさと秋の気配が感じられ、両側には木々が生い茂り、野花が彩りを添える。こうした自然景観は中国では比較的好く目にするが、日本でこうした景色を改めて見るととても身近に感じられた。

山の風に吹かれながら私たちは高台寺での茶道と座禅体験に参加した。文化は一杯の茶に例えられ、幾度も研磨を繰り返し、素早く攪拌し、お湯で淹れた後に文化の味わいが茶の香りのように立ちこめる。茶の口当たりは甘さの中に若干の苦みがあり、苦みの後に甘さが来る。そして枯れていく。三度の茶の味わいは人生の味わいと似たものがある。

その後、山中の鳥のさえずりや雨が木の葉を打つ音を聞きながら、私たちは高台寺の住職の指導の下で座禅を体験した。座禅は私にとっては辛いものであった。静かに呼吸を整え心の子を感じなければならない。しかしこうした訓練は自分の心と向き合うものであった。瞑想していると自分の心の声が聴こえたような気がした。住職が鈴を鳴らし、私

たちが座禅を始めると、精神が身体を離れ自我を超越し、その後住職の「鞭撻」の下、精神が四方から再び身体に戻った。これは説明するのが難しい奇妙な感覚であった。

座禅を終えた後住職からは、座禅は孤独と向き合う方法の一つであり、俗世に立ち、人の世で奔走するうちに心は往々にして孤独に陥りがちだが、座禅をして自らの心を本来の姿に戻すことで孤独と向き合うことができるとのお話があった。

最後に私たちは箱根での温泉体験のため新幹線で小田原に向かった。その車内で私は今回の日本での経験について初めて振り返り、改めて日本の素晴らしさを感じると同時に心を奪われた。

日 付： 5月31日（木）【3日目】

大学名： 北京語言大学

氏 名： 潘思妙

今日のスケジュールは比較的楽で、午前は嵐山の見学と茶道・座禅体験で、午後は新幹線移動の末、箱根の温泉旅館に到着した。

午前の活動では座禅が印象深かった。私はかつて『自控力（自己制御力）』という本で「座禅」に似た概念の内容を見たことがあった。その本では「瞑想」と呼んでいた。座禅は心を落ち着かせることができ、自分に対する制御力を高めることができる。これから先こうした方法を多用したいと思った。

食事の後は新幹線での移動となった。新幹線の噂はかねがね耳にしていた。中国の高速鉄道よりもスピードが速いとのことだったが実際に体験しても正しくその通りで、加速がとても良かった。座席間の距離も大きく、背もたれも大きく調節することができた。またトイレも非常に清潔で高級感があり、手洗いの蛇口以外にも流し台洗浄用のノズルも配備されているなど先進的なものであった。

日 付： 6月1日（金）【4日目】

大学名： 清華大学

氏 名： 李安南

テルモの見学では、医療技術企業の建物にこれほどの芸術性があるとはまったく予想していなかった。建物内部はとても芸術的雰囲気があり、至るところに油絵があるだけでなく、様々な彫像もあり、自然と精神的な満足感が得られるものであった。その後の実際の血管内治療の練習体験においては、たとえこうした情報をリアルタイムにフィードバックする設備があっても、医師にとってこうした手術を成功させるためには何百・何千回もの練習を行う必要があることを知った。そのため、情報技術を学ぶ私は人工知能の医療分野における応用の将来性についてははっきりと感じることができた。機械がアルゴリズムを通じて医師に対して情報をリアルタイムにフィードバックするだけでなく、これらの情報を自ら理解し判断のサポートができれば、医師の手術における負担を大きく減らすことにつながるのではないだろうか。あるいは、これが将来の方向性なのかもしれない。

この他特筆すべきは、テルモ社の細やかな準備ぶりである。これらは多くの場面に示されていた。例えば、私たち一人ひとりに自社製品をプレゼントしてくれた他、ゲートには日中両国の国旗が並んで掲揚され、中に入ると歓迎の横断幕が掲げられていた。またさらに感動したのは、同社の代表取締役会長が私たちと会うためにわざわざ東京から駆けつけてくれたことである。

それ以外に検討していくべき点としては凸版印刷における「印刷」への幅広い定義がある。その定義ではARやVRを将来的な「印刷」に組み込んでいる。これは非常に新しい考え方と言える。

日 付：6月1日（金）【4日目】

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 關浚竹

朝8時に箱根湯本温泉の箱根天成園を出発した私たちは、その後テルモ社に到着した。そこは簡素ながらも高級感のある建築様式で、庭園のような同社の業務環境にはとても驚かされた。ここは医療を通じて社会に貢献することを企業理念とした同社が医療従事者の能力向上のための研修や技術研究を行う場所である。そして自然と調和した建物には高性能の精密医療機器が配備され、多くの医療従事者が様々な医療現場をシミュレートした環境において研修を行い、さらに最先端の医療技術の研究が行われている。私は医療従事者の大変さを強く感じた。そして一人の優れた医療従事者の育成には多くの心血が注がれており、同社が彼らの能力向上に専心することで人類の生命や健康に貢献していることに私はとても感心した。真の医療技術研究には静かな環境そして善良な心や動機が必要であり、テルモはこれらの実現のため絶えず努力をしている。

凸版印刷博物館に関して最も印象深かったのは、宣伝媒介の変化であった。壁画の図案から紙上の文字そしてカラープリントまで、歴史の記録における人類の絶え間ない進歩を見た思いがした。

その後住友商事を訪れた。持続可能な発展についてのお話や、サステナビリティ推進部の大野茂樹部長からの挨拶そして貞川晋吾シニアアナリストからの住友商事の概況についての紹介の後、同社の3名の中国人スタッフと交流を図った。その中で最も印象深かったのは宋誠超氏の日本の企業文化についての考えで、同氏からは、日本企業は長期的な発展、多元的な目標、チームワークを重視しており、こうした経営理念は温泉、徳川家康そしてスポーツ文化といった日本文化の影響を受けている。住友商事は常に時代の変化に先んじ、新たな価値を創造し、幅広く社会に貢献する世界的企業グループとなることを目標とし、明確で厳しい行動指針を有している。そして明確な理念や目標は住友商事の方向性をはっきりと示している、とのお話があった。ある女性スタッフからは日本企業で働く上での性別問題の影響についてお話があり、日本の女性は自立していることから自ら子どもの世話をする。よって普段の仕事や家庭環境構築に部分的な難題が存在するが、気持ちを新たに生活におけるバランスをとることが重要であるとのことであった。

今日のスケジュールは詰まっていて、タイプの異なる3つの企業を見学した。彼らに共通する特徴は、自らの事業に専念し、革新を原動力とし、また人類の進歩を全体的目標として事業展開をすることで企業を大きく成長させているということである。

今日は沢山の収穫が得られた。

日 付：6月1日（金）【4日目】

大学名： 北京語言大学

氏 名： 何沛霖

今日はテルモ、凸版印刷そして住友商事の3社を見学した。

実は事前に資料を通じて多少の勉強はしていたが、これらの企業の事業内容や理念といったものについては充分理解することはできていなかった。しかし今日の実験の体験により、これらの企業は私が想像していたよりも遥かに実力のある企業であることを知った。

はじめにテルモについて、まず建物の外観がとても印象深かった。私の企業というものへの印象は鉄筋コンクリートのオフィスビルである。だがここは庭園の中の和風建築のような外観と至るところに美術品が置かれた内部空間で、優雅な環境により従業員にどうあるべきかを教えるという会社の形態のもう一つの可能性を見た思いがした。この他、同社の模擬居宅はとても素晴らしかった。ここでは在宅患者への看護行為への評価を行うためにわざわざ患者のモデルの視野と同じ高さになるように家具が置かれていた。こうした細やかさからは、医療企業の患者への思いやりが感じられた。日本に来る前、私は日本企業がどのように自らの製品のユーザー体験を高めているのか気になっていたが、今

回その答えが見つかった。テルモでは掌の感覚が鈍った患者の状態を体験する手袋や白内障患者の状態を体験する眼鏡を使い、ユーザー体験を高める一助としている。これらは中国の企業が学ぶべきものである。

その後凸版印刷を訪れた。元々は普通の印刷会社だと思っていたが、同社は印刷にハイテクさをもたらしていた。彼らは雑誌やパッケージの他、液晶パネルといったハイテクサービス、さらにソリューションの提供など一貫サービスを行っている。これには、企業を長く存続させるためには時代の流れを見極め、事業を拡大していくことが必要なのだと思う。

この点については住友商事も同様であった。約400年の歴史を有する住友グループの一員である住友商事はそれぞれの時代において革新を続け、新たな分野に挑んでいる。現在は環境保全が主流であるため、同社は新エネルギーの発展に力を入れている。私はこれに同社の独特な戦略眼を強く感じた。そして、長く存続するためにすべきことはまず自発的な変化であることを知った。

日 付： 6月2日（土）【5日目】

大学名： 清華大学

氏 名： 劉繆詩棋

昨日、中島さんから、元気よくホームステイの日を迎えるためにしっかりと休むようお話があった。だがホームステイはこれまでのようにスケジュールに従う必要はないため、きっと楽だろうと思っていた私は、その言葉にあまり納得はしていなかった。しかし実際にホームステイが始まり、関係のぎこちなさや習慣的な違いはとても悩ましいものだったことに初めて気付かされた。

私のホストファミリーはテルモの山本さん一家であった。エレベーターでは各階のボタンを押したり、デパートでは玩具が欲しくて駄々をこねたりとお子さんは丁度やんちゃな年頃であった。それでもこの二人のお子さんが、突然やって来た私に対して心から良くしてくれたことには驚かされた。

4歳の息子さんは私を誘って一緒にお団子を食べ、1歳の娘さんは口数が少ないものの、常に私に笑顔を見せてくれた。彼らのやんちゃぶり、そしてこうした感動的な場面、私はその瞬間子どもに対する父母の気持ちが分かった気がした。「疲れても楽しい」とはこういうことを言うのだろう。

文化や習慣は違っても感情は相通じるものがある。人と人との交流は実に面白いものだった。

日 付： 6月2日（土）【5日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 孫震

ホームステイの一日。

ホストファミリーとの最初の目的地は浅草寺で、浅草寺では訪日団の他のメンバーとも顔を合わせた。そして郷に入っては郷に従えということで、正式な作法でお参りをした。その後のおみくじでは皆が吉をひく中、自分だけが凶だったが、これもまた別の意味での幸せだと思うことにした。

東京都庁は40階建てで、最上階からは東京タワーやスカイツリーなどの姿をはっきりと見る事ができた。夜は広島風お好み焼きでとても美味しかった。ホストファミリーのお宅では子どもと遊んだりした。言葉こそ通じないものの心が通い合っていて、多少の英語と身振り手振りを交えての交流もまた一味違う楽しさがあった。

この他、さらに日本の銭湯も体験したが、中国に昔からある風呂屋とほとんど変わりはなく、懐かしさを感じた。

日 付： 6月2日（土）【5日目】

大学名： 北京語言大学

氏 名： 邱侶萍

今日はホームステイの初日で、また日本に来てから最も楽しい一日であった。

朝、前原さんと奥さんそして息子さんは早くから私を迎えに来た。その後まず浅草寺に行き、おみくじでは最も縁起が悪いとされる「大凶」を引いたが、それからの一日はとても幸運に恵まれたものであった。

浅草寺の見学の後、私たちは千葉県の手賀沼ファミリー宅へ向かった。東京でみる光景とは異なり、ここはすべて一戸建ての家屋であった。また生活のリズムもゆったりとし快適であった。その後私がラーメン好きだと聞いた前原さんがお昼に私をラーメン屋に連れて行ってくれた。食後に帰宅し娘さんの帰りを待って出かけることになり、前原さんがソファで休んでもいいとのことだったので、私は少し休むつもりで横になったのだが、なんと2時間半も寝てしまった。しかし娘さんを含めた手賀沼ファミリーは私が目を覚ますのを待っていてくれた。これにはお邪魔したばかりで失礼なことをしてしまったと思ったが、彼らは機嫌を悪くすることはまったくなく、逆に私に理解を示してくれた。

夕食の際は、お姉さんとその旦那さんも私を歓迎すべく手賀沼ファミリー宅を訪れた。そして皆で焼き肉を食べ家族の感覚を味わった。それから夕食後にテレビを見ていたら突然部屋の電気が消え、誕生日の歌とともにバースデーケーキが運ばれてきた。何と彼らは前倒しで私の誕生日を祝ってくれたのである。今日初めて会った手賀沼ファミリーが私にこれほど良くしてくれたのには本当に感動した。異国のこの地では沢山の感動があった。感謝している。

日 付： 6月2日（土）【5日目】

大学名： 外交学院

氏 名： 盛悦

ついにこの日がやってきた。出発の前から重山さんや直美さんとはメールでやりとりをしていたが、今日ついに会うことができる。朝早くに私たちはホールに集まり、緊張と期待が入り混じった気持ちで手賀沼ファミリーの出迎えを待っていた。事前に写真を見ていたことから、私は彼らの姿をすぐに見つけることができ、名前が呼ばれた私は興奮のあまり飛び出した。今日は直美さんとの観光となり、重山さんは準備のため一足早く帰宅した。私たちはまず東京タワーに向かい、青空の下東京全体が眼下に広がり、解説員のお話と共に、かつてドラマで見た様々な景観を目にすることができた。

上野公園の不忍池はすでに蓮の葉で一杯であったが蓮の花はもう暫くかかりそうであった。小舟が漂う様子を見ながら、風が吹き付けると涼しさを感じた。その後上野公園から徒歩で日本の最高学府を訪れた。驚いたのは東京大学の建物はヨーロッパの教会のようなスタイルで、キャンパスの中では中世のヨーロッパにタイムスリップしたような感じがした。

手賀沼ファミリー宅は東京近郊の川崎市にあり、JRで30分ほどの距離である。直美さん曰く、都内で働く若者の多くは川崎に住んでいて毎日JRで往復しているとのこと、北京の北西にある昌平区で生活している私たちと似ていると思った。

重山さんや直美さんとのふれあいでは心配していた堅苦しさは全くなく、私たちは沢山の話をし、さらに日本の「体操」をしながらテレビを見たり、キャッチボールをしたりと時間はあっという間に流れ、名残惜しさが感じられた。

明日は重山さんのバイクで海辺に行く。とても楽しみである。

日 付： 6月3日（日）【6日目】

大学名： 清華大学

氏 名： 羅睿

私の手賀沼ファミリーがわざわざ手作り寿司のパーティーを開いてくれたのにはとても感動した。海苔で米や魚を巻

いて醤油やわさびをつけて食べた。さらに彼らは私の誕生日が近いことを知り、バースデーケーキを準備してくれた。崎田さん宅での昨夜は最も早く、またぐっすり眠れた一晩であった。

崎田さんとの交流での収穫は、日本経済についてより深い知識が得られたことである。日本経済の中核は三菱、三井、京セラといったメーカーで、それぞれの従来の事業において尽力すると同時に技術革新や応用革新をめざす。こうした経験の基礎や技術特許を有する発展モデルはとてもしっかりとしたもので、日本の実体経済を日々強化し、さらに日本の国民経済の発展を支えている。一方中国は基礎技術の開発や進化に力を入れておらず、不動産産業や「インターネット+」に依存してGDPを高めている。だが私は「インターネット+」はモデル的な革新であり、インターネット経済と実体経済の融合は生活の利便性向上を促進するものであるが、国民経済を成長させるものではないと思う。

日 付： 6月3日（日）【6日目】

大学名： 清華大学

氏 名： 廬宇芳

今日はホームステイの二日目、普段の団体行動での詰まったスケジュールとは異なり、私は日本の一般家庭のリラックスした週末を体験したいと思っていた。朝5時すぎホストファミリーの二人のお子さんが目を覚まし、それから朝食を済ませた後、私たちは水族館を見学した。水族館は海から近く、私は今回初めて海を目にした。海辺の木陰では沢山の家族がピクニックをしていた。彼らは自然がとても好きで、海辺で蟹を捕まえたり、芝生の上で寝そべり陽の光を浴びたりと自然に溶け込んでいるかのようであった。

それ以外にも一つ印象深い出来事があった。水族館内のファストフード店を通りがかった際、ホストファミリーの3歳の息子さんがお腹がすいたと言ったが、ホストファザーは私に特色ある日本の食べ物を沢山体験してもらうため息子さんには食べ物を買ってあげて、その後私たちはそばを食べに行った。実際ファストフード店でお昼を済ませてもよかったのだが、こうした彼らの私への思いやりにはとても感動した。

夜は自由行動の時間で、私は先輩と銀座へ行き、そこのラーメン屋でラーメンを食べた。多くの人にとっては疲れた一日を終えた後ここにきて熱々のラーメンを食べることが幸せのひとつそしてリアルな生活なのだろうと思った。

日 付： 6月3日（日）【6日目】

大学名： 對外經濟貿易大学

氏 名： 曾欣

ホームステイ二日目。

初日の夜はホストファミリー宅でホストマザーが作ったカレーとアボカドサラダそしてキノコのクリームシチューを食べ幸せな一晩だったが、その中で一つ印象深い出来事があった。自分が寝る部屋に蚊がいることに気付いたところ、彼らは懸命に蚊を探してくれたのである。これにはとても感動した。

翌日は新宿で買い物をした。新宿は若者が集まる街であり、多くの若者が遊んだり洋服を買ったりしていた。そしてホストファミリーとドッグカフェに行った。そこの秋田犬はとても凛々しく、首には緑や赤のスカーフをしていた。

夜の自由行動の時間は秋葉原に行った。そこは本当にアニメ好きの聖地であり、沢山のフィギュアのお店があった。

日 付： 6月3日（日）【6日目】

大学名： 首都医科大学

氏 名： 孫立瑩

ホストファミリーは私のこれまでのスケジュールを知った後、私の身体を気遣い、私を起こすことはせず、8時半に私が目を覚ましてから朝食をとった。これには家族の温かみを感じた。

その後私たちはまずおばあさん宅の小さな農場に向かった。そこではトマトやきゅうり、ねぎ、豆、ピーマン、唐辛子、とうもろこし、スイカなどが栽培されていた。畑自体は大きくはないため、それぞれの作物は2〜3つだけ栽培されていたが、おばあさんはさらにカスミソウやユリの花を植えるなどとても趣のある生活をしていた。私の故郷でも農民はこうした労働に従事しているため、これらの作物や環境は私にとってはとても馴染み深かった。

その後私たちは東京の観光バスに乗り東京を見物し、さらに銀座でアイスクリームを食べた。ホストファミリーからは至れり尽くせりのお世話を受け、また日本の文化を間近で体験させてくれたことで私は日本についてより深く知ることができた。

将来改めて阿字地さんご家族と再会できることと同時に、彼らの健康と幸せを願っている。

日 付： 6月3日（日）【6日目】

大学名： 外交学院

氏 名： 範伯陽

今日の朝、目を覚ました私はまず河尻さん宅の庭からこの静かな町を観察した。朝食時は中国と日本の大学入試制度の違いなどについて話をし、食後河尻さんは私がずっと行きたかった池袋西口公園に私を連れてきてくれた。石田衣良の手によりそこは青春と男気に満ちた場所となっていたが、実際は想像していたほど大きくはなかった。西口公園を離れ私たちは近くのサンシャインシティ(小説でよく登場する場所)を訪れた。期待していたほどではなかったが、ある意味聖地の巡礼であった。

その後私たちは東京大学を訪れ、そこで私は東大の文字が入ったサインペンを買った。その後は銀座に行き、河尻さんからプレゼントとしてタオルを買っていただいた。そしてホテルに戻りお別れとなった。名残惜しかったが河尻さん一家に感謝を伝え、プレゼントを贈った。

その後は自由行動となり、私は渋谷と新宿のブックオフに行き7000円で200冊の本を買いとても満足できた。

日 付： 6月4日（月）【7日目】

大学名： 中国人民大学

氏 名： 徐怡雯

今日は最終日の前日でこれまでと異なる体験をすることができた。

三井住友銀行の見学を終え、私たちは今回の企業訪問をほぼ終えたが、日本の企業のグローバル化の進展ぶりには驚かずにはいられなかった。彼らは自身の世界各地における影響力を常に高めているが、こうした点は学ぶべきだと思った。それと同時に日本企業のグローバル人材への需要も強く感じた。彼らは新たな力の加入に期待している。

大使館での交流では学生達からこの数日間の感想などが発表され、私たちは交流を楽しむと同時に、こうした文化的違いについての相互の理解や意思疎通そして共感がよりされていくことを願っている。私たち大学生は日中の友好交流における基盤であり、日本の優れた部分を学ぶと同時に中国の新たな姿を伝えることはとても素晴らしいことだと思う。

早稲田大学は私の興味を引いたとてもユニークな大学であった。早稲田の学生はとても話し上手で自己アピールに長けていた。ただ不思議に思ったのはこの一部の学生は英語を話さないどころか聞き取ることもできないことであった。私がその理由を訊ねたところ返ってきた答えは、試験においてはヒアリングやスピーキングは求められていないからとのことであった。中国の大学では英語のヒアリングとスピーキングは成績において大きな割合を占めていることか

ら、私たちはこうした返答には驚かされた。討論の際私たちはキャリア構築と日頃の趣味について意見交換をした。この学生は修士課程については重要とは考えておらず、学部を卒業後に自分の就きたい仕事を探すことに比重を置いている。また彼らはスポーツ好きで勉強オンリーについては賛同していない。彼らは未来への希望や期待に満ちていて、私は彼らのそうした情熱が気に入った。

日 付： 6月4日（月）【7日目】

大学名： 北京語言大学

氏 名： 艾力亜斯・肉孜

今日は朝から三井住友銀行の見学であった。そこは三井住友銀行の本社であったことから、建物の外観の立派さにまず驚かされた。その後同銀行についての解説を聞き、さらに驚かされた。銀行での見学を終え、私たちは日比谷松本楼での昼食となった。ここは中国の近代史特に偉大な革命家の孫中山氏と関わりがある場所で、私たちは食事をとりながら日本滞在時期における孫中山氏の活動ぶりについてのお話を拝聴した。

その後、私たちは中国大使館へ向かい、そこでは参事官との交流を行った。また各大学の代表者から日本でのこの数日間における感想の発表があり、とても有意義であった。

大使館の後、二つめの大学訪問として早稲田大学を訪れた。期待と好奇心を胸に早稲田大学に到着し車を降りた瞬間、憧れていた早稲田大学が目の前にあることに私は驚き呆けてしまった。そしてこの時すべてのものが目新しく感じられた。

教員の案内の下で討論会場に到着した私たちは事前に決められたグループに分かれた。そして私たちは4人の早稲田の学生と交流をすることになった。討論のテーマは「卒業後のキャリア構築」、「日頃の趣味」で、各自が意見を述べ合った。その後私は自分たちのグループを代表して皆の前で総括を行った。夕食の際は会場が私たちと早稲田の学生の笑い声に包まれた。

とても有意義な一日であった。

時間が止まればいいのと思った。

日 付： 6月5日（火）【8日目】

大学名： 对外經濟貿易大学

氏 名： 荀潔星

今日は日本での最終日で間もなく北京に戻ることになるが、とても名残惜しい気分である。

次に日本を訪れるのがいつになるのかは分からない。或いは東京オリンピックかもしれないし、長い年月が経った後に自分の妻と一緒に来るかもしれないが、今この時私は「I Love Tokyo」と言いたい。

最終日とは言え、私たちのスケジュールは当然ながら充実していた。朝にはホテルニューオータニのエコ施設を見学した。優れたホテルにとっては、上質なサービス以外にも自然との共存が重要である。私たちはさらにホテルの発電施設や水の循環システム、そしてゴミ処理システムを見学したが、これほど大規模な設備は見たことがなかったのでテンションが上がった。今回私はホテルの運営の裏側において必要なものについて初めて知ることができた。

次いで歓送会が開かれ、ホストファミリーの方々も私たちとお別れをするために会場に駆けつけてくれた。北京語言大学の先輩が『日本舞踊』を披露し、私たちは『銀の龍の背に乗って』を合唱した。

Good Bye,Tokyo,I will miss you.

日 付： 6月5日（火）【8日目】

大学名： 首都医科大学

氏 名： 余夢潔

今日は最終日。

午前私たちはホテルニューオータニ地下の発電設備や浄水システムそしてゴミ処理システムなどを見学した。私たちは同ホテルで三泊したが、地下にこうした施設があるとは知らなかった。その後スタッフの解説により、これらのシステムの作動原理を概ね知ることができた。また日本では多くの団地にもこうした処理設備があるという話を聞き、日本の環境への配慮の姿勢に驚いたが、意外だったのはホテルニューオータニの様なサービス業においても日本の大企業と同じ社会的責任感を持っていることであった。日本には環境理念が浸透していない業界があるのだろうか？

時間が経つのは早く、あっという間に帰国の時が訪れた。お昼の歓送会では私のホストファミリーは来られなかったが、その他の団員が彼らのホストファミリーとお別れをしている場面はやはり感動的であった。わずか二日間の付き合いで私たちには深い感情が育まれた。これは遠く離れていても私たちを繋ぐものとして、いつの日か私たちを引き合わせてくれるものだと思っている。

日 付： 6月5日（火）【8日目】

大学名： 外交学院

氏 名： 劉知雨

今日は訪日活動の最終日で、午前は荷造りを済ませた後、ホテルニューオータニのスタッフの案内の下、ホテルのエコ施設を見学した。ホテルニューオータニについては清潔で美しいという印象があった。私たちは発電施設で同ホテル独特の省エネ技術について学んだ。その後汚水とゴミの処理システムを見学したが、特に印象深かったのは樽を使った汚水の浄化で、この樽は水質を汚染しないように一本の釘も使われておらず、特殊な木材で作られている。エコ施設の見学の後は日本庭園を訪れた。歓送会は忘れ難いものとなった。私の本来のホストファミリーの急な事情により、今回私は別のホストファミリーのお世話になったが、その本来のホストファミリーの山本さんがわざわざ歓送会に足を運んでくれたのである。山本さんは典型的な日本美人で、私は彼女の美しさに驚くと同時にその心遣いにとても感動させられた。

学生たちの観た日本

大学名： 清華大学

氏 名： 羅睿

テーマ： 1.国民性についての理解

2.集団帰属意識の強さ

日本の企業文化における大きな特徴としては、チームワークへの重視、各人が自身の職責を果たす、上下関係が明確というものがあるが、一般社員もしくは後輩社員は自発的に上司や先輩社員の言動を尊重していることから、伝統が安定的に継承されている。

私が思うに、こうした現象は日本の国民性における「恥」の文化に起因している。ベネディクトの著作『菊と刀』によると、日本人は比較的他人の見方を重視するため、企業の上司や先輩社員は自発的に自らの行為を律し、その他の社員にとっての悪い見本にならないようにする。そして部下や後輩社員は上司らの言動に従い、企業の文化や伝統が自らの部分で途絶えることを回避している。

だが、こうした企業文化から生じる国民性は国の発展においては諸刃の剣と成り得る。厳しく伝統を守ることは、必然的に杓子定規になり、発展を妨げボトルネックに陥りやすくなる。一方中国企業は伝統というものに拘らないことから革新の意識が高い。チームとしてのプランの制定においては摩擦が生まれやすいが、全体的に良好な革新力と効率を有している。

中国企業は革新や優勝劣敗を重視すると同時に適度に企業の伝統文化や制度を維持することで、総合的に発展をしていく必要がある。

大学名： 清華大学

氏 名： 杜秉霖

テーマ： 1.国民性についての理解

この数日間の感想を一言で表すと、日本は洗練した非利己主義者を育成している。

まず洗練について述べると、日本の人々は普段の生活において細部にとても配慮していて、こうした配慮が生活に洗練さをもたらしている。典型的な例としてはトイレが挙げられる。ハイテクというわけではないが、快適さを与えてくれる。日本の人々もまた生活管理が上手で、食事における栄養のバランスや日々の生活のスケジュールなどからはいずれも彼らの洗練された生活への追求が見て取れる。また洗練については「コンパクトで美しい」と言い換えることができる。

次いで非利己主義者について述べると、これは企業文化からその一部を見て取ることができる。京セラ、テルモ、住友商事、三井住友銀行などではいずれも社会や人類に貢献することを経営理念としている。こうした環境においては利他の考えや、社会や人類全体を対象とした事業がより重視される。日常生活においては日本の人々もまた他人の気持ちに常に配慮し、他者を尊重することに長けている。これもまた非利己主義の表れである。

洗練した非利己主義者は国や社会の安定を守り、社会の進歩を促進する中核的存在であり、日本の社会環境もこうした人々の成長に適している。この点についても私たちは検討し学んでいくべきだと思う。

大学名： 清華大学

氏 名： 劉繆詩棋

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本での数日間において、私は日本人の礼儀というものについて多くを考えさせられた。もちろん反論できない事実としては、日本人はとてもマナーに気を付けていると同時に常に他人の気持ちに配慮しているという点がある。一つ例を挙げると、私たちを乗せた車の運転手が時折素晴らしい運転テクニックを披露した際、ガイドの中島さんは決まって私たちに運転手へ拍手をして感謝を伝えるようにしていた。中国において私はこれまで運転手に感謝をするということを考えたことすらなかった。中国人の観念では、運転手として雇いそれに見合った報酬を与えている場合、運転手の全てのサービスは当たり前のものである。だが日本では彼らのサービスはとても重要視されている。この点については、たとえ物質やサービスにおいて等価での交換がされる場合でも、私たちは報酬を与える際には相手を尊重する必要があると思った。

こうした意味から言えば、日本人の礼儀は職業を問わない。運転手であれ弁護士であれ、それぞれの仕事や努力は尊重されている。この点は私たちが学ぶべきである。

それと同時に私はまた、こうした礼儀は細やかであるとともに時に「煩わしいしきたり」にもなっていると思う。例えば、私たちが誰かとお別れをする際、相手側は姿が見えなくなるまで手を振る。初めは珍しく思ったが、その後は次第にこうした礼儀は本来の意義を失い、表面的なものになっているのではないかと思うようになった。マナーはもちろん重要だが、ひとたび形式化してしまえばその意味も変わってしまう。最も重要なのはマナーの背後にある情感であり、マナー自体ではないのである。

私は早稲田大学の学生達とこの問題について意見交換をしたが、彼らからも時にこうしたマナーが一種の習慣となり、本来の意味を持っていない場合があるとの回答があった。

また日本人がマナーを重視し常に他人に配慮することはもちろん良いことである。しかし日本人は常に「他人に迷惑をかけない」という原則を守っているため、多くの場合彼らは他人の見方を気にし過ぎる余り自分の欲求や本来の性格を押さえつけてしまう。

こうなると街全体は秩序があり調和がとれるが、皆が堅苦しくまた敏感になる。ある意味、人々は社会に巻き込まれ、盲目的に大勢の意見に合わせやすくなり、ひいては思想が硬直化し革新を疎かにする可能性も生まれる。

いずれにしても、マナーは美德であり、他人を思いやるのもまた美德であるが、何事も適度に、本来の自然な状態に戻ることで真の感情が伝わるのだと思う。

大学名： 清華大学

氏 名： 李安南

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

アメリカの作家ベネディクトが日本について記した著作『菊と刀』では、日本の民族的性格について「恥の文化」と定義しているが、これは中国の「やましいことがない」や欧米の「罪」といった思想とは多少異なり、三者の自身の行為への抑制力はそれぞれ他人、自分の価値観そして神の救いからもたらされている。よって日本人は非常に他人からの評価や見方を気にしており、またとても自制的である。例えば地下鉄では静かにする、エレベーターでは他人のためにボタンを押す、見知らぬ人にも会釈をするなど、私たちは今回の8日間で日本にはこうした民族的特性があることに

気付いた。そして仮にある人がその一般的な決まり事を守らなければ、彼らはその人を多少さげすむような目で見ることで行為を正そうとする。

マナーや思いやりについては本質的には一種の自製の表れであり、日中を比較すると日本企業と中国の国有企業にはいずれも終身雇用の制度があるが、日本では誇るべき経営手法となっているのに対して中国では企業の発展を阻害する要素となっている。このことから日本人と中国人の国民性の違いは、同一制度の異なる効果をもたらしている。よって私たちは他国における成功モデルを盲目的に導入してはならず、最も重要な部分を抜き取り、さらに自民族の性格に適した点を選び、自らの特徴を持つ制度を形成することで、リソースの効率的利用による高度成長を実現していく必要がある。

大学名： 清華大学

氏 名： 廬宇芳

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

6.今後ますます中国でニーズが高まる技術

日本について印象深かった二つの点は日本の企業と文化である。まずマナーについて、日本のホテルや企業のスタッフのサービス態度はとても人当たりが良く、彼らが普段から口にするすみません、そして有難うございますといった言葉からは他人への尊重が感じられた。しかしその一方で、私たちが企業の見学を終えお別れをする際の、皆さんが互いの姿が見えなくなるまで手を振る状況には、礼に縛られていて真の名残惜しさが表れていないのではないかと思った。それでも日本人が中国人より礼儀正しいということについては、中国人として学んでいくべきだと感じた。

そして企業について、日本の多くの中小企業は100年以上の歴史があるが、中国企業の平均寿命は8年前後であり、この点は日本の文化的伝承に関係する以外にも匠の精神に関連している。その他、日本政府は企業への政策支援が充実していて、京セラの太陽光パネルにおいては充分な量の使用が認められているだけでなく、余った電力の提供も可能である。中国の多くの地域では日光の照射が充分であるため、太陽光パネルを活用すればきっと資源利用を大きく合理化できるが、この時企業が考えるのは自身のシェア独占と利益獲得であり、そのために政府は政策により問題を解決する必要があるため、結果的にこうした発電方法の発展速度を妨げることにつながる。

大学名： 中国人民大学

氏 名： 趙元培

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

5.アニメなどのソフトパワー

私は日本人のマナーについてとても細やかだと思っている。企業訪問を終えお別れをする際、企業のスタッフが見送ってくれるのだが、彼らは姿が見えなくなるまで手を振ってお別れをする。初めはこうしたやり方に理解ができなかったのだが、ホストファミリーとのお別れの際、私は彼らの姿が見えなくなるまでずっと手を振ることで彼らとの別れを心から惜しんだ。私はこうした行為の背後には他者への心からの思いやりがあるのだと感じた。こうした事柄としては他にもエスカレーターで自発的に左側に立つことや、「すみません」や「有難うございます」といった言葉を口癖のように使うことなどがある。これらは国民の素養の表れであり、他人への配慮を真っ先に考え、「他人へ迷惑をかけない」ことを肝に銘じれば、その行為は自然とこのようになるのだと思った。

私はアニメ等の日本文化にとっても興味を持っていたため、今回日本においてそうした方面のソフトパワーを体験したいと思っていた。そして私は今回日本における二次元文化産業の発展の様子を直に体験し、さらにこうした文化の日本の若者への流行度合について理解を深めた。日本のアニメがなぜ中国でとても人気があるのか気になっていたが、今回私は日本のこうした文化の発展ぶりを知ることができた。

大学名： 中国人民大学

氏 名： 徐怡雯

テーマ： 2. 集団帰属意識の強さ

3. マナーのよさと思いやり

5. アニメなどのソフトパワー

日本では従業員は終身雇用制であるため、企業は従業員にとって終生尽くす場所である。対して中国の大部分の企業では、従業員が一つの企業で勤め上げることはほぼなく、多くの中国人従業員は自分に合った仕事が見つかるまで頻繁に転職を繰り返す。そのため日本企業に比べ、中国企業における集団意識は弱く、危機に直面した際の対応が難しくなっている。一方日本企業は従業員の帰属意識があるため、危機に直面した場合でも従業員は企業と共にそれを乗り越える。

日本と聞くと私の中ではまずアニメや二次元文化だった。幼少の頃に見たアニメでは、愛や感動、献身や情熱についてのストーリーがとても印象深かった。日本のアニメ文化はとても優れていて、その独特なタッチとストーリーで世界に日本の心を紹介している。アニメのストーリー自体は現実では実現できないかもしれないが、作品中のひたむきさは現実からアニメを通じて表現されることでより多くの人に伝えられている。

また日本に来てから、彼らのサービス意識の高さに驚かされた。マナーは日本の人々の心に刻まれたものであり幼少の頃から教育されている。中国と比べ、日本の人々にとって礼儀は必要なものであり、時に必ずしなければならぬものである。彼らはすべての物事についてそれがあって当然のものではないため、感謝の心を持たなければならぬと考えている。よってこの社会におけるあらゆるものに対して礼儀をもって接しているのである。

日本の文化については、伝統の維持や未来への創造などまだ把握していない部分が沢山ある。よって、それらを知る次の機会を楽しみにしている。

大学名： 中国人民大学

氏 名： 胡心縁

テーマ： 1. 国民性についての理解

中国には古くから弁証法の哲学思想があるが、日本の「小と大による弁証」、「新と旧による弁証」には多くを考えさせられた。

ここ数日日本において最もよく耳にした言葉は「小さな面積」と「人類」であった。これは日本人が常に謙虚な心を持っているのかもしれないが、日本は自分たちの国土面積が小さいことを強調すると同時に絶えず視野を全世界に広げている。企業や大学の理念においてはそのシンプルさや個人の発展に拘ることなく、全人類の発展と進歩に目を向けている。私たちが訪れた各企業の本社に展示スペースがあり皆が見学できたり、また京都大学において多くの偉大な基礎科学研究者が生まれたりしているのもそのためである。地理的面積の小ささが変えようのないものなのであれ

ば、自分たちが見つめる世界と地球は彼らがその努力により勝ち得たものである。

私のホストファミリーの黒羽さんは毎回斬新なデザインの建物を見る度に私に「これは1980から90年代に建てられたもの」だと教えてくれたが、ここで不思議に思った。中国では新しいといえばここ数年で作られたものであり、10年以上経てばそれは古いものだと考えられる。日本社会は物事の「不変」を重んじており、彼らはいかなる時も本来の姿を維持しようとするが、その一方で常に時代の変化に注目し調整を行うことで適応し、古い良いものについては捨てることはせず、新しい変化に追い付いていく。これが彼らの維持そして「不変」である。

小と大、新と旧、一見矛盾するものだが、実は一つのものである。日本はこのように弱点と向き合い改善し、それと同時に初心を忘れない国民性を有している。これは私たちが学ぶべきものである。

大学名： 中国人民大学

氏 名： 孫震

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本での交流において最も印象深かったのは、日本の人々のマナーの良さや他人への思いやりといったものであった。

日本を訪れる前から日本のマナーについての心構えはしていたのだが、それでも日本を訪れてからは彼らの礼儀やマナーには驚かされた。ここでは他人の生活の邪魔をすることはなく、また行き届いたサービスを提供している。例えば地下鉄に乗る際には混雑時の迷惑にならないようリュックを身体の前にかける。ホテルではエレベーターの出入りがしやすいようドアを押さえる。また挨拶の一言からも素晴らしいもてなしの心が感じられた。

私はかつて日中の民間におけるマナーについて比較をしたが、中国人的には残念な結果であった。その後、日本と同じとまではいかなくとも、他人の邪魔をせず、他人の迷惑にならない程度までは国や国民はマナー意識を高めるべきだと考えていたが、最近の状況から見ると、私たちはそれを実現できている。

日本の礼儀や規則に対する意識は幼いころから育まれている。どの国でもわがままな子どもはいるが、ホストファミリーとの交流を通じて私は、中国での幼い頃は緩く、大人になってから厳しくするのは異なり、日本では規則に対する意識が幼い頃から厳しく教えられていることを改めて感じ、この点を学ぶべきだと思った。

大学名： 中国人民大学

氏 名： 耿思博

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

今回訪日団として日本を訪れたことは、大学生期間における最も貴重な経験の一つとなるであろう。今回の訪問で最も印象深かったのは日本人のマナーの良さと思いやりであり、細やかな点から日中交流についての理解を深めたと思う。

サービス業におけるマナーは最もしっかりしていた。また人に快適さと楽しさをもたらすマナー以上に、私たちは人当たりの良さや尊敬に満ちた日本人の民族的性格を感じることができた。いつでも人当たりの良さは変わらず、常に他人を尊重し、そうした尊重を言動により示している。そうした尊重は性別、年齢、貧富、外見とは関係がなく、心からのものである。

マナーはまた個人的価値の表れである。文化において、人文主義は常に大衆に影響を及ぼしてきた重要な要素であり、人間性はヒューマンイズムすべてに貫かれている。マナーや他人への配慮の精神はヒューマンイズムから端を発し、人と人が互いに相手の価値を尊重する。差別、隔たり、違いなどはあってもマナーや思いやりは常に存在し、それは時空の変化により変わることはない。

日中の交流をマナーや互いへの思いやりに浸透させる中で、日中の訪問交流は一つの良い例である。毎回感謝の心で交流をし、両国の友好に携わる人々が互いに協力し今日まで継続してきた努力は、日中両国の人々の心を繋ぐ絆となっている。

日中の経済交流は従来から発展していて、経済や貿易においてはまた互いに依存する関係である。それと同時にグローバル化の情勢において、日中の交流もまた今まで以上に密接になっていくだろう。また文化交流においては、日中関係は文化の源を同じくするなど長い付き合いがあり、科学技術が発展していく中で、両国の文化もまたこれまで以上の関わりが生まれるであろう。

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 關浚竹

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

今回の日本訪問において最も印象深かったのは日本人のマナーの良さと思いやりであった。

まず普段の態度について、エレベーターに出入りする際にエレベーター内の他の人に対して「すみません」と声を掛け、他人の通路を塞いでしまった場合にはお詫びをするなど彼らは常に他人に対して礼儀正しい。

こうした他人に対する心からの尊重はまた日本の様々な商品のデザインにも表れている。例えばビュッフェにおいてトレイを持った人が利用しやすいようにジューサーの傍に一時的にトレイを置く場所を設ける、トイレの便座が温かく、洗面所では温水が利用可能、レストランや商店を問わず店員がとても親切、ホテルの部屋の照明が利用者にとって最も便利で快適な場所に設置され、洗面所やトイレの照明がセンサー式で夜間の利用に便利、などである。

この他、日本企業の人類全体への関心も私的にとても印象深かった。例えば、京セラの社訓は「敬天愛人」で人類と社会の進歩に貢献している。テルモは「医療を通じて社会に貢献する」を企業理念とし、医療従事者の成長を後押しし、人類の生命と健康に貢献している。住友商事は常に変化を先取りして新たな価値を創造し、広く社会に貢献するグローバルな企業グループとなることを目標とするなど、これら私たちが見学した企業はいずれもマクロ的な発展目標を有しており、目先の利益にだけ拘ることはしていない。まさにこうした「先例となることを恐れない」企業がハイテク分野において貢献を続けることで人類の創出レベルが高まるのである。こうした企業の探求精神は時代の進歩を牽引している。

日本人は他人への思いやりによって、サービス業、ハイテク、医療産業などにおいて卓越した貢献をしている。これら日常生活におけるマナーからもたらされる様々な事柄は私たちが学び、そして総括すべきものであり、私にとって今回の訪日における最大の収穫でもある。

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 荀潔星

テーマ： 4.日中間の交流

6.今後ますます中国でニーズが高まる技術

経済学を学ぶ学生である私は有難いことに今回の「走近日企・感受日本」に参加し、日本で進んだ技術を目にすると共に日本の人々の優しさやもてなしを体験することができた。

「人生、仕事の結果＝考え方×熱意×能力」、これは稲盛和夫氏が打ち出した著名な方程式である。京セラの見学の際、私は稲盛氏の経営理念と人生哲学に深く感銘を受けた。私の中で日本は先進国であり、その進んだ技術以外に企業文化への重視とチームワークの良さから日本企業の寿命は一般的にとっても長く、次世代への伝承を重視している。我が国が「大衆創新・万衆創業（大衆の起業・万人の革新）」の呼びかけの下で企業を強くするためには、日本企業の管理モデルや企業文化から学んでいくべきだと思う。

もちろんこれ以外にも、今回の訪日では日本の人々のマナーの良さや思いやりがとても印象深かった。私たちは日本語を話せないが、それでも彼らの穏やかな口調や常に見せる笑顔から、日本人はとても親近感がある民族だとわかった。今回私は米田さん夫婦のおもてなしにより異国の地で家庭の温もりを体感することができ、とても感謝している。日中両国の人々のこうした友好交流は、両国関係の健全な発展を後押ししていくものだと思う。

私は、思い出の詰まったこの日本を将来再び訪れたいと思う。また私たちに今回多くの収穫をもたらした訪日の旅という貴重な機会を提供してくださった中国日本商会や中日友好協会に感謝している。そして日中両国の友好がさらに深まることを願っている。

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 王璐

テーマ： 2.集団帰属意識の強さ

3.マナーのよさと思いやり

日本での8日間はあっという間だったが収穫も多かった。その中で印象的だったのは以下の三つである。

一つめは京セラと同社のアメーバ経営で、アメーバ経営方式において企業組織は外部環境の変化に伴い形を変え、常に最良の状態を確保する。この点が四度の世界的経済危機を経ても同社が大きく発展している理由だと思う。

二つめは住友商事において楊方女史からお話のあった指導力の重要性で、一般の従業員であっても一定の指導力を身に付けることで自らの判断力を有し、さらに課題に直面した際にもグループに対し自らの貢献ができるのである。

三つめはホームステイの際に感じた日本人の優れた素養である。例えば礼儀正しさについては、私個人としては自分が得たものに対して常に感謝の気持ちを持つことだと思う。そして皆が感謝の気持ちを持つことでのみ未来の中国がより良くなると思う。

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 朱宸賢

テーマ： 1.国民性についての理解

日本ではすべての事柄に両極端な属性が存在している。例えば洋服について、普段の東京の街中においては、スーツに身を包んだサラリーマン、少年らしさや活力に満ちた学生、お洒落ながらも奇抜なスタイルをした人といった

様々な人を見かける。またポスターについて、一部の店では世界で最も派手な色を使い切ろうとするかのように大胆な配色をし、さらにすべての文字を最大まで拡大しているが、その一方で、一部の店は一つの文字すらもその環境を乱すのではないかとと思われるほどに質素である。そうした和風の清々しさや荒々しさはいかなる場所や物事においてもはっきりと目にすることができる。これは一種の矛盾ではあるが、日本社会の包容力と個性の表れと言える。私はこうした多様性が好きで、また多様化した調和も好きである。これは攻撃性を持たず、反対に私を感動させる「優しいもてなし」である。

もう一つ印象深かったのは日本人の物事に対する細やかさである。これについては多くの面から感じることができる。私たちが目にしたきれいで整然とした街角の背後には国民の「潔癖症」の如き衛生への重視があり、トイレにおける水音機能、テルモで見かけた中国と日本の国旗、彼らの時間への重視といったものすべてが日本という国の他の国と異なる特質を示している。そしてこの点については中国も実現することは可能である。私たちはすべてにおいて日本を見習う必要はないが、多くの中国人が日本のある特質に快適さ或いは楽しさを感じるとすれば、それは中国が学ぶべき部分であり、少なくとも国民の生活をより幸せに楽しくしてくれるものである。

大学名： 对外経済貿易大学

氏 名： 曾欣

テーマ： 2. 集団帰属意識の強さ

日本滞在期間中は多くの企業を見学したが、日本企業の集団帰属意識が私にとって印象深かった。この集団帰属意識は二つの面から見て取ることができる。一つめは従業員の組織への帰属感で、離職率、欠勤率の低さ、組織市民行動の多さに表れている。二つめは企業の従業員に対する保護や育成の意識で、従業員の配置換えを意識的に行うことで企業内だけで従業員の研修や成長が行えるようにしている。

こうした状況の理由は二つあると思う。一つめは日本企業の終身雇用制度により従業員の企業への理解が深まり、企業利益と個人利益が結びつきやすくなっている。二つめは日本企業の使命や戦略は利益の最大化を目標としておらず（欧米企業と異なる）、同時にグループの従業員全体の生活や発展、目標の違いを踏まえ異なる対処方法をとっている（京セラのリストラなしなど）。

これらの背後からは日本の国民における「恥の文化」の影が見て取れる。他人からの評価を気にしているため、終身雇用制の企業においては大多数の人が自分の仕事を最大限全うするのである。

大学名： 北京語言大学

氏 名： 艾力亜斯・肉孜

テーマ： 1. 国民性についての理解

3. マナーのよさと思いやり

日本に来る以前の私の日本への印象は経済が発達した強国というものであった。サービス業は世界をリードし、常に最高の接客を行うというのが彼らのモットーである。そしてこうした点は中国の目標でもある。

私は今回、日本の街中がとても清潔だということに気がついた。実は京都大学で学生と環境問題について討論した時から彼らの素養の高さを感じていた。討論において私が「もしごみの分類をせずにごみを捨てた場合、罰金などはあるのか？」と訊ねた際、彼らは長い時間考えていたが、その後私は彼ら自身分類をしないという経験がなく、どのよ

うに答えたらいいのか分からなかったと知った。一国の国民の素養は大きな会議や外交に表れるのではなく、普段の我々自身に表れるのである。

アジアの経済の中心である日本は東アジアにおいて最初に先進国となった国であり、自身の経済を発展させると同時に国民の素養を高めていることは、それ自体すでに魅力的なシンボルであると言える。

今回日本を間近で観察し学ぶ機会が得られたことに感謝している。今回の活動は「井の中の蛙」が井戸を飛び出し新たな世界を発見したのと同じであった。

有難うございました。

大学名： 北京語言大学

氏 名： 邱侶萍

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

日本での数日間において印象深かったのは日本の人々の素養であった。

訪問先の日本企業の皆さんからはとても丁寧なもてなしを頂いたが、それ以上に印象的だったのは活動以外の時間において接した人々であった。

毎回ホテルに戻りエレベーターを使用する際、中に日本の人がいると彼らは決まってエレベーターのドアのボタンを押し、出入りがしやすいようにしてくれた。そして1階に到着すると周りの人に先を譲り、自分が最後にエレベーターを出ていた。

これは一見些細なことではあるが、こうした些細な部分ほど真実を伝えるものだと思う。彼らにとって他人を思いやることは骨の髄まで浸透している観念であるが、これは幼少の頃からの教育と大人が示す手本の賜物だと言える。

こうした点は現在の中国の若者が学ぶべきものだと思う。

大学名： 北京語言大学

氏 名： 潘思妙

テーマ： 5.アニメなどのソフトパワー

今現在中国人が誇れることは、中国が世界第2位のエコノミーとなり、政治的地位も上昇を続けていることであり、日本を訪れる前は私も中国はすでに台頭しており、モバイル決済、シェア自転車、B2Cなど多くの分野で従来の大国よりも秀でていると思っていた。しかし、実際に日本を訪れいろいろな体験をしていくうちに、日中のソフトパワーの差を埋めるには数十年ひいては百年単位の時間がかかるのではないかと思うようになった。

ここで私が言うソフトパワーとは文化のことである。文化とは曖昧な概念ではあるが、文化的な国は世界中から人気があり、文化的な国での生活は心地良いものである。日本とはそのような文化的な国である。日本ではトイレは常に清潔で、清々しい香りすら漂っている。タクシーは光を反射するほどきれいに磨かれ、タクシーの運転手はパリッとしたスーツに身を纏っている。道路などの公共スペースではゴミ箱を見かけることはほとんどなく、皆は自分たちのごみを自宅に持ち帰り分類した上で処分する。サラリーマンは常に身なりがしっかりしていて礼儀正しく他人に接する。2030年には中国のGDPはアメリカを追い越し世界一になると思われるが、日本の様な文化的な国になるのにはあと何年の月日を要するのだろうか。世界各国の人が中国について話す時に、騒がしい、甘い汁を吸うことを好む、身勝手といった印象ではなく、中国は経済と科学技術の大国で、また文明的で責任感のある大国だと言ってもらえる日は来るのだろ

うか。

ホストファミリーからのお話によると、日本のこうした文化も実現には紆余曲折を経たとのことで、以前は人々もごみへの細かな分類を面倒に思っていたが、1964年の東京オリンピックを契機として文化の道を歩み始めた。中国は中華民国時期においては民族としての責任感や荣誉感を有していたが、その後約100年の間、独立を果たした中国人は自国への関心を失い、自らが裕福になることに専念している。2012年、習主席は全国民が一定の生活水準を実現すると同時に、強大で、民主的、文化的そして団結力のある国を構築し、その文化により世界から認められるための社会主義核心価値観を提起している。

大学名： 北京語言大学

氏 名： 張一帆

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

日本を訪れる以前、私は日本人の「残業文化」を理解できず、すべての日本企業には長時間の残業があると思っていた。また、時折必要以上に相手を敬遠する理由、それ以上に日本の大学における学術や生活面の状況についても知らなかった。

こうした問題について、今の私にはその理由が分かっている。

自分の仕事が終わった後に多少居残り仕事を終えていない同僚を手伝う、これは自発的な「残業」であり、大多数の日本人の「残業」はこれに当てはまる。これはある日本の友人から聞いた話である。中国人にはこうした考え方がないため、日本社会に関わったことのない中国人にとっては確かに理解し難いことであると言える。だが、もし自分が仕事を終えていない立場だったら、誰かに少しでも手伝ってほしいと思わないだろうか。日本人の考え方において各個人は全体の中の個人であり、当たり前のように周りの人を自発的に手助けする。そして彼らは人当たりもとても良く礼儀正しい。また夫婦間でも「ありがとう」や「どうぞ」といった言葉を使う。中国人として私達も祖先から伝わる「相敬如賓（夫婦が互いを客人のように尊敬する）」の精神を忘れてはならない。私達たちは多くの王朝による文化の入れ替わりを経験しているため、次第に古くからの美德や訓戒を失っているが、日本では「ありがとう」の言葉は頻繁に耳にするなどすでに日本人の生活の一部となっている。日本ではこうした他人への尊重や思いやりといった美德がしっかりと受け継がれており、日本の大学では東洋や西洋の文化、古くからの美德や進んだ思想がうまく融合されている。学生は言論の自由があり、自分の意見をそのまま表現できる他、教授らも学生からの問題提起を推奨している一方で、教授と学生、学生同士、教授同士の関係も尊重という美德が保たれている。

私個人として最も印象深かったのは、日本人の環境や自然への畏敬や保護の精神である。

大学名： 北京語言大学

氏 名： 何沛霖

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

中国と日本の交流は決して抽象的な事柄ではなく、私たちの今回の訪日活動のあらゆる場面に表れている。

日本人との触れ合いの中では、皆が同じような顔立ちをしていることから私は国籍の違いというもの常々忘れてい

た。特に日本の学生との交流の際は皆の考え方などは大きな違いはなく、日本語を話すことを除き同年代の人との交流という認識で、外国人と交流しているという考えはなかった。

また日本人との交流では、私たちの間にあった一部の誤解や偏見といったものも無くなった。これまでは授業などで日本社会をテーマとした討論をしたことがあったが、そうした時でも自分がインターネットや教科書などを通じて知り得た日本について話すことしかできなかったが、今回実際に交流をし、そうした情報に間違いがあったことに気が付いた。

例えば、私は従来日本語の言語体系は繁雑で敬語も長つたらしいと思っていたが、今回日本で丁寧な接客態度を目にしたり、日本人と交流をしたりといったことを通じて、相手を敬うために使ったり、自分が尊重されていると相手に思わせたりすることができる敬語はとても必要なものであると思った。またこうした敬語は自らの心にある相手への思いをうまく相手に伝えることができる。これは中国語では実現が難しいものである。多くの人が日本人はあまり感情を表に出さないと考えているが、中国人は自らの心にある感情や他人への尊重といったものを表現することを日本人に学ぶべきだと思う。

私たちは自らが勝手に想像する相手への印象を鵜呑みにしがちなため誤解や偏見は存在するが、交流や意思疎通を図ることでそれらは解消され互いに理解し合うことができるのである。

大学名： 首都医科大学

氏 名： 余夢潔

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

8日間の日本訪問が終わり改めて振り返ってみると、いくつかの言葉や出来事がとても強く印象に残っている。

まず最も印象的な言葉は「Thank you for waiting(お待たせしました)」で、ホストファミリーが私を彼らの自宅に案内するその途中に、お子さんを連れてトイレに行ったホストファザーが戻ってくる際に私に「Thank you for waiting」と声を掛けてくれたのである。こうした言葉は初めて耳にするもので、その時は多少気恥ずかしかったが、それからの数日間、私は頻繁にこの言葉を耳にし、ホテルでエレベーターを待っていた際もエレベーターが到着するとスタッフから「Thank you for waiting」と声を掛けられた。日本人は常に感謝の気持ちを持っており、サービスへの感謝、同行への感謝、提供への感謝をしている。これには私の考え方も次第に変わり、従来のようにサービスを当たり前と思うのではなく、周りの人に「ありがとう」と言うようになった。

もう一つ頻繁に耳にした言葉はホストファザーの口癖である「はい、はい」という言葉であった。私が何かを話す際、彼は自分の手を休め真剣に私の話を聞きながら「はい、はい」と口にしていて、それと比べ私が彼の話を聞く際は少し頷く程度で積極的な反応はしていなかった。ホストファザーのこの口癖からは私への尊重や賛同、真摯な態度といったものを感じることができた。

今回の8日間で私たちは企業や学校そして家庭といったものから様々なディテールを集め私たち自身の心の中の日本を構築した。私が体感したのはマナーに優れ、謙虚で礼儀正しい日本であった。私はこうした日本を心に留めて今後の人生における師とし、他人への感謝や尊重というものを身に付けたいと思う。

大学名： 首都医科大学

氏 名： 孫立瑩

テーマ：1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

5.アニメなどのソフトパワー

マナーの重視、綺麗な環境、企業制度といったもの以上に私は今回のホームステイの際にとっても印象深かった秋葉原での出来事について語ってみたい。

私自身がアニメ好きでよくアニメ作品を見る他、今回友人からフィギュアの購入を頼まれていたため、ホストファミリーから行きたい場所を聞かれた私はオタクの聖地である秋葉原と答えた。私のホストファミリーは年配のご夫婦で、彼らの娘さんはすでに嫁いでいた。私は彼らにとってアニメ文化は縁のないものだろうと思い、内心あまり期待はしていなかった。

しかし何とホストマザーは秋葉原で勤めている甥御さんに連絡し、その後ホストファザーと甥御さんが私をメイド喫茶や大型のアニメ関連グッズのお店に連れて行ってくれた。メイド喫茶の店内ではメイドさんと一緒に行うパフォーマンスがあり、ホストファザーはその内容を中国語に訳して教えてくれた他、メイドさんもわざわざ中国語を使ってくれた。アニメ関連グッズの店内ではホストファザーがわざわざ中国語ができる店員を見つけフィギュアの紹介をしてもらうなど、こうした優しさや他人への思いやりはすでに日本の国民性の一部分として大和民族に浸透していると思った。

それからもう一つ、私がこうしたオタク文化の体験をしている時、ホストファミリーは中国の父兄とは異なり蔑むような態度はまったくとっていなかった。彼らはこうしたものを好きなことは悪いことではなく、音楽や映画が好きであることと同様にとらえている。これも寛容さという日本文化における特徴の一つだと言える。

自然と現代、都市と農村、人と人、伝統文化と西洋文化、日本は様々な方面の長所を取り入れ自分たちの独特の文化を作り上げた。中国は日本のように文化的な寛容さを学ぶことはできるだろうか。

大学名： 首都医科大学

氏 名： 蓋峰

テーマ：5.アニメなどのソフトパワー

私の日本に対する知識とえば、そのほとんどが日本のアニメに関するものであった。こうした点は、ソフトパワーはその普及において非常に大きな優位性を持っていることを表している。今回の日本での交流活動において、私はホストファミリーの同行の下で秋葉原を訪れたが、そこでのアニメ産業体系の発達ぶりからは、アニメの年齢や職業を問わない浸透度合の他、社会の様々な分野での応用といった一種のシンボリック存在としての独特の魅力を感じることができた。

日本のアニメ関連グッズはハンドバッグやキーホルダーなど様々な種類があり、日々の生活の中で幅広く応用され、その影響力を高めている。また商業活動やサービス業などにおいてもアニメキャラクターの起用によりそのユニークさを高めている。以上が私の日本のアニメというソフトパワーへの認識である。

三井住友銀行は私たち訪日団を出迎える際に、カエルをイメージしたシールを使い企業イメージとしての親しみやすさを高めていた。

大学名： 首都医科大学

氏 名： 林慧欣

テーマ：3.マナーのよさと思いやり

6.今後ますます中国でニーズが高まる技術

今回の訪日活動は私にとって初めて祖国を離れ、異なる民族の文化の多様性や異国の状況を体験できた活動であった。実際には日本と中国とは共通点の方が多いが、その中でも異なる点は私たちに啓発をもたらすものである。以下、何点かの出来事を通じて私が目にした日本について紹介していく。

一つめは礼儀である。日本で過ごした8日間では、私が触れ合ったすべてのサービススタッフ、店員、ホテルのマナー、運転手といった人々は常に笑顔で、さらに「すみません」という言葉を口にしていて。訪日団の多くの団員は私と同様に彼らから尊重というものを感じたが、私はさらに長い間感じることもなかった誠実さと寛容さを感じた。住友商事での懇親会においてある中国人従業員から、日本のサービス業に関わる人々は常に笑顔だが、実際には大きな圧力を抱えているという話を聞いた。日本人は愚痴や負のエネルギーを他人に伝えることを嫌っており、この点は彼らの他人に迷惑をかけないという自立式の教育と大きな関係があると私はこの時思った。

二つめは文化である。私のホストファミリーの一員である12歳の娘さんは5年間茶道を習っていた。茶道は中国において唐の時代以前に生まれたもので、南宋の時代に日本へ伝えられた。しかし今日では、中国において茶道を学ぶ人は非常に限られており、反面日本では茶道を貴重な存在として受け継いでいる人が沢山いる。こうした現状は、中国における王朝の交替により一部の文化が失われたことに起因していると思われる。幸いここ数年、伝統文化の継承については華服節の開催など次第に多くの中国人が重視し始めている。

三つめは堅持である。日本の京セラ(60年)、三井住友銀行(4世紀)といった長い歴史を持つ企業にはそれぞれ長寿の秘訣があるが、それは堅持である。稲盛和夫氏がオイルショック当時の最も困難な時期に人員削減をすることなくその危機を乗り越えることを諦めなかったことが、今日のフォーチュン・グローバル500の京セラの形成に繋がっている。対して一部の中国の国有企業の寿命が短いその主な理由は、利益が望めなければ直接それを放棄するという「投機主義」にある。実際にはこれは堅持と融通の問題である。私は、企業の形式、戦略、プロジェクト、製品などは状況に対応するために融通をきかせても良いが、理念というものは堅持しなければならないと思う。

以上が今回の訪日において印象深かったものである。いずれにしても今日の日本には私たちが学ぶべき多くのものが存在しているが、中国としても例えば私たちが日常使用するAlipay、WeChatなどの決済方式といった一部の分野においては、独自の優位性を有している。互いに学び合うことで私たちは共に成長することができる。今回私たちは日本の友人たちと連絡先を交換した。これからも連絡を取り合い、相互理解を深めたいと思う。

大学名： 首都医科大学

氏 名： 欧雯欣

テーマ：2.集団帰属意識の強さ

3.マナーのよさと思いやり

短かった訪日の旅も終わり、これまで日本を訪れたことが無かった私は今回の経験を通じてメディアが言うのとは異なる新たな日本について知り、これまで以上にこの学ぶことに長けた日本という国をより知りたいと思うようになった。

今回の訪問では多くの日本企業を見学し、沢山の金融面の知識を得ることができた。そして日本企業は日中両国の文化的違いを非常に反映していると思った。日本企業は一般的に歴史が長く、100年以上の歴史を持つ企業の比率は世界でも一、二を争う。また長い歴史を有する企業もしくはブランドの多くは支店をあちこちに開くといった事業の大規模な拡張はせず、自らの店舗をより優れたものにすることに専念している。こうした根気もしくはひたむきさというものは私たちが学ぶべきものだと思う。また日本企業は集団帰属意識が強く、彼らは日本の経済や社会への影響よりも

全世界ひいては全人類への影響というものを重視しており、私たちが学ぶべきものである。

また同時に、今回の訪問の過程、特に企業やホストファミリーとの触れ合いを通じ私は、日本国民のマナーは幼い頃からしっかりと育まれていていることを知った。例えば毎回企業の見学を終えその場を離れる際には従業員の皆さんが視界から姿が消えるまで手を振ってお別れをしてくれたが、こうした光景は中国ではほとんど見ることはないものであった。ホストファミリーのお子さんは1日で「ありがとう」の言葉を何十回も口にする。他人に対してであれ、また家族に対してであれ、こうした礼儀の育成は素晴らしい文化の継承であり、周囲の人に素養が高いという印象を与えると同時に日本という国に対する好感度も高めることができる。

わずか8日間の訪日の旅では日本のすべてを理解することはできないが、マクロ的に日中両国の違いや私たちが日本に学ぶべき点を知ることができた。すべての真理は実践を経て生み出される。将来改めて日本を訪れ、東アジア民族としての日本をより深く知りたいと思っている。

大学名： 外交学院

氏 名： 範伯陽

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

私はかつて一時期自治体国際化協会で実習をしたことがあったが、その際最も印象深かったのは日本人の時間への正確さであった。彼らは常に恐ろしいほど正確に午後1時(規定の業務開始時間)にオフィスに入る。こうした点は彼らの長年の実践や習慣によるもので、最終的に一種のルールとなったと私は思っている。傍観者の立場であるが、こうした部分について以下に述べたいと思う。

日本は非常にルールを重んじる国であり、時間への正確さも一つの重要なルールである。もし単純に何事も事前の計画通り行わなければならないとすれば、古臭い概念にとらわれ、融通が利かないという印象を与えるが、実際にはほとんどの状況において時間に正確な方が有利になる。時間に正確であることは、つまりより多くの時間を対策の制定や突発的事件への対応に充てることができる他、さらに他者に利便性をもたらす作業効率を高めることができる。一見すると時計の歯車のような生活で、皆が必死に生きているように見えるが、私はこれこそ生活の意義であり、社会人として守るべきルールだと思う。

大学名： 外交学院

氏 名： 盛悦

テーマ： 3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

日本人のマナーへの重視については多くの人が知っているが、実際に体験してから彼らのマナーの良さはすでに習慣となり浸透していることに気が付いた。日々の「おはようございます」や「ありがとうございます」といった言葉は口癖のようになっている。ホストファミリーは私にとっても配慮してくれた。北京語言大学の団員の話には、彼女とホストファミリーの女の子が買い物に出かけた際、女の子が着替えを終えると真っ先に彼女に待っていたことへの感謝を述べたといった内容があった。こうした些細な出来事は私たちが自身を見つめ直すのに足るものであった。現在、私たちは多くの事柄について当然のものとしており、畏敬や感謝の心を失っている。

日中間の交流については、以前はメディアの報道で言われるような日中双方の外交や経済交流についての知識に限られ、民間交流の意義や形式などについては深い理解をしていなかった。しかし実際の体験を通じて、日中双方の人々の交流、心と心の交流があつてこそ相互理解が可能となり、両国の平和的で友好的な発展を推し進めることに繋がるのが分かった。企業の従業員からも、中国人として単身日本を訪れたが同僚から沢山のサポートをもらい、国籍の違いにより差別されることはないといった話があるなど、日中間の交流は民間においてひっそりと、だが大きな影響力をもって進められている。

学生たちの観た日本を通じて小さいものから大きいものを見ると、私たちが今後発見しさらに中国において広めるべき日本独特の優れた部分はまだ沢山あると言える。

大学名： 外交学院

氏 名： 王思嘉

テーマ： 1.国民性についての理解

3.マナーのよさと思いやり

4.日中間の交流

今回の訪日において最もたくさん口にした言葉そして耳にした言葉は「ありがとう」であつた。

他者への感謝の気持ち、自然の恩恵への畏敬の気持ち、家族間の尊重、自分の事については最大限自分で行うこと、他人に迷惑をかけないことなどからはその国民性が表れている。

きれいな路地、細かく分類されたごみ、良好な治安などからは日本がとても規則正しい国であることが分かる。

ホストファミリーと過ごした短くも楽しかった1日半の時間では、私に対する深い思いやりを感じることができた。皆さんとても優しく、我が子のように私に接してくれて、私が洋服の試着をするときは待ってくれて、食事の際は私の食べたいものを一緒に食べてくれた。

日本の一流大学である京都大学と早稲田大学の学生との交流では、私たちが把握している日中両国の状況は彼らとは違うものであつたが、皆は何の偏見もなく、敏感な話題について論争することもなく、互いに相手の国の文化への尊重の気持ちを抱きつつ、友好的で活発な交流を行った。

一流企業が一流たる所以についても知ることができた。独特な企業文化、全人類の共同の幸福を中核とする経営理念、従業員の終身雇用制度などからは多くを考えさせられた。

お世話になった皆様、誠にありがとうございました。

大学名： 外交学院

氏 名： 劉知雨

テーマ： 1.国民性についての理解

2.集団帰属意識の強さ

3.マナーのよさと思いやり

わずか1週間あまりの日本滞在であつたが、多くの感想が得られた。まず皆が日本に到着して最初に感じた日本人のマナーの良さである。中国では手を振ってお別れをするのは一つの形式上のものであるか、或いはお別れをするという象徴であるが、日本では手を振る動作はゲストへの尊敬、お別れをする相手への名残惜しさが込められたもので

ある。「手を振る」、「目送する」、「お辞儀をする」これら一見形式化した礼儀は、日本人が手を抜かず一つひとつ行うことで、一際礼儀正しく、見るものを感動させ、尊敬の気持ちを相手に伝える。子どもが親の手助けを受けた時には親に感謝を述べる、コンビニの店員がお客の一人ひとりに感謝を述べる、歩行者が強い日差しの下働いている駐車場のスタッフを見かけた際に「彼らは本当に大変だ」と思いやりの言葉を発するなど、日本人の「礼儀」は「親密ではない人」だけに限らず、赤の他人や最も親しい家族に対しても同様に用いられる。次に日本の国民性である。私が思うに日本の国民性には沢山の長所があり、主に自律的でルールを守ることと集団帰属意識に示されている。京都大学の教授のお話はとても印象的であった。同教授からは、例えば京都大学は独特で開放的な思想を重視している、日本の各都市にはそれぞれ特色があるといった、それぞれの「グループ」にはそれぞれの特色がありそのルールを厳しく守っている。こうした「グループ」内の統一性は個人のみならず、学校や都市などをカバーしている、といったお話があった。また日本人の自律性やルールにも驚かされた。路地では清掃作業員やごみ箱を見かけないのにもかかわらずごみ一つなく、子どもですらアイスクリームの包み紙を指定のごみ箱に捨てていた。日本人の集団意識も明らかで、会社、故郷、住んでいる街に対する彼らの一挙手一投足からは集団意識における責任感が示されていた。ある時、渋谷駅のハチ公像の所でホストファザーが潰れたごみを見かけると何のためらいもなくそれを拾い、ごみ箱を見かけるまでそれを持っていたが、この行為にはとても驚かされた。

視察・交流先、行事



京セラ: 京セラ(中国)後藤董事 総経理のご挨拶



京セラ: 稲盛ライブラリーを見学 創業者の人生哲学・経営哲学を学ぶ



京都大学: 各教室に分かれて、テーマ別討論会



京都大学: 驟雨も上がり、時計台の前で記念撮影



京都観光: 嵐山 周恩来総理の記念詩碑前で記念撮影



京都観光: 高台寺 見よう見まねで、茶道のお手前



京都観光：高台寺 参禅体験 住職から警策を受ける



箱根観光：宴会 各校の出し物 対口相声 見事な掛け合いでした



テルモ：模擬病院で、真剣に治療実習



テルモ：三村代表取締役会長のご挨拶



凸版印刷博物館：2階のバーチャルフィッティングに人気集中



凸版印刷博物館：中西課長から印刷文化史の説明を受ける



住友商事：到着後すぐ、社名が入った石碑の前で記念撮影



住友商事：第一線で活躍する中国人社員4氏とのパネルディスカッション



三井住友銀行：國賀顧問から中国語のご挨拶



三井住友銀行：東館「金融/知のランドスケープ」を見学



日比谷松本楼：小坂文乃社長の語りで、孫文と梅屋庄吉の交友史を知る



日比谷松本楼：玄関前で、記念撮影



中国大使館：律桂軍公使参事官の講話を拝聴する



中国大使館：律公使参事官を中心に記念撮影



早稲田大学：大教室内で、英語、日本語班に分かれてテーマ別グループ討論



早稲田大学：討論会後の発表光景 右側は、司会兼コメンテーターの白木教授



ホテルニューオータニ：エコツアー後、日本庭園で、団旗を掲げて記念撮影。



歓送会：伊澤理事長を挟んで、王団長(右)邵一等書記官(左)と団員、ご家族の皆様

ホームステイ



ファミリーの庭先で食事 至福の一時です



渋谷に出て、お母さんと、忠犬ハチ公前で記念撮影



自撮りで、二匹の猫になりました



小さな友達を思わず両手で抱きしめて、一枚



屋根なし2階建ての観光バスに乗って東京見物



海鮮バーベキュー店にて食事、満腹で横になりました